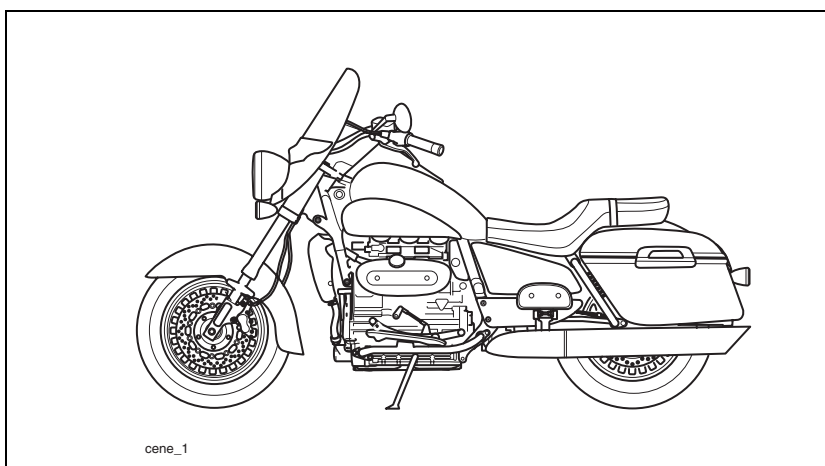


はじめに

はじめに

本取扱説明書は、Triumph Rocket III Touring について解説したものです。この取扱説明書は、常にモーターバイクと共に保管し、必要な時はいつでも情報を得るために参照してください。



警告・注意・注記

この取扱説明書の中で特に重要な情報は、以下のような形で示されています：



警告

この警告記号は、内容が特に重要な指示や手順であることを示しており、適切に守られなかった場合は人身事故を引き起こす結果になりかねません。



注意

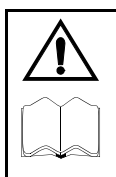
この注意記号は、内容が特に注意の必要な指示や手順であることを示しており、厳重な注意を怠ると、装備に損傷を与えたり、破壊する結果になりかねません。

注記：

- この注記記号は、操作性や便利性に関して役に立つ情報を示します。

はじめに

警告ラベル



モーターバイクには、左のようなシンボルマークの付いているところがあります。このシンボルマークは「注意：取扱説明書を参照してください」の意味で、このマークの下に関係のある事柄についての図解が載っています。

本取扱説明書の中の関連事項についての注意を参照しないで、モーターバイクを運転したり、調整を行ったりしてはなりません。

この記号のついたラベルの位置はすべて、11ページと12ページに記載されています。必要と思われる場合には、関連情報を記載したページにも同じ記号をつけてあります。

整備

お買い求めのモーターバイクを安全で故障のない状態で末永くお使い頂くために、整備は正規Triumphディーラーのみに実施してもらってください。

お買い上げのTriumphモーターバイクを適切に整備し維持するのに必要な知識、設備、技術を有するのは、正規Triumphディーラーだけです。

最寄りのTriumphディーラーの所在地を見つけるには、Triumph のウェブサイト www.triumph.co.uk で探すか、貴国の正規ディストリビューターにお電話ください。ディーラー等の住所は、本取扱説明書に付随しているサービスレコードブックに記載されています。

騒音防止システム

騒音防止システムの改造は禁じられています。

下記の項目は法律で禁止されている可能性があります：

- 最終的な購入者への販売または引渡し前や使用中において、整備、修理、交換以外の目的で、新車に組み込まれている騒音防止用の装置や設計要素を、誰であろうと取り外したり、作動不能にしてはならず、
- 装置やデザインを改造した車両は、理由の如何を問わず、撤去するか操作不能にします。

はじめに

取扱説明書

このたびはTriumphモーターバイクをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本モーターバイクは、Triumph社の実証済みのエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求してやまない努力が結集されて生まれた製品です。

実際に走行を始める前に、この取扱説明書を読み、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を熟知してください。

本書には、安全走行の秘訣が盛り込まれていますが、モーターバイクを安全に運転するのに必要なテクニックやスキルのすべてが網羅されてはいません。

Triumph社は、本モーターバイクの安全運転を保証するために、ライダーの皆様すべてにトレーニングを受けられるよう熱心にお勧めしています。

本取扱説明書は貴地のディーラーからも入手できます。

- ・ オランダ語
- ・ フランス語
- ・ ドイツ語
- ・ イタリア語
- ・ 英語
- ・ スペイン語
- ・ スウェーデン語

警告

この取扱説明書と、モーターバイクと共にお届けしているその他の解説書はすべて、お買い上げのモーターバイクの永久部品とお考え頂く必要があります。後になってお使いのモーターバイクを売却される時は、必ずバイクと共に譲渡してください。

ライダーの皆様には、走行前にこの取扱説明書とお買い上げのモーターバイクと共にお届けしたその他の解説書を読んで頂き、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を余すところなく知って頂かなければなりません。お持ちのモーターバイクをみだりに他人に貸さないでください。バイクの操縦装置、特徴、能力、限界を良く知らないで走行した場合、事故を引き起こす恐れがあるからです。

Triumph との絆

お客様との関係は、Triumph購入の時点で終わるものではありません。弊社製品を購入されたお客様に、その後体験されたことをフィードバックしていただくことは、製品開発とサービス向上に極めて重要です。代理店にお客様のメールアドレスをお伝えいただき、登録をお願い申し上げます。お客様のメールアドレス宛てに、オンライン顧客満足度調査書を送信いたしますので、フィードバックをお願い申し上げます。

Triumph チームより

はじめに

情報

本刊行物に記載されている情報は、印刷時点で入手可能な最新情報を基にしています。Triumph 社は、予告なしに、いかなる義務を負うこともなく、いつでも内容を変更する権利を有します。

Triumph Motorcycles Limited の書面による許可なく、本書の全部または一部を複製することは禁じられています。

© Copyright 02.2010 Triumph Motorcycles Limited, Hinckley, Leicestershire, England.

出版部品番号 3852941 第 4 版

目次

本取扱説明書は、いくつかの章から成っています。下記の目次には、各章の最初のページのページ番号が記載されています。主要な章の最初のページには更に目次がついていきますので、必要な項目を特定して探し出すのに役立ちます。

はじめに	1
警告ラベル	11
部品の名称	13
シリアルナンバー	16
一般情報	17
モーターバイクの運転	41
アクセサリ、積載条件、同乗者	53
整備と調整	57
保管	103
仕様	105

はじめに－安全第一

モーターバイク

⚠ 警告

このモーターバイクはオンロード専用
に設計されています。オフロードでの
使用には適しません。
オフロード走行をした場合、モーターバ
イクのコントロールが失われて人身事
故に帰する恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターバイクは、トレーラーの牽引
やサイドカーの取り付けを意図して設
計されていません。サイドカー及び／又
はトレーラーの取り付けは、操縦性を損
なって事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターバイクは、ライダーを単独
で、またはライダーと同乗者を一緒に運
べる二輪車として使用するよう設計
されています。
ライダー、(ある場合は) 同乗者、アク
セサリー、荷物の重量合計が、最大車載
限度の220 kgを超過してはなりません。

燃料と排気ガス

⚠ 警告

**ガソリンは非常に可燃性の高い物質で
す：**

給油の際は必ずエンジンを止めてくだ
さい。

喫煙中、あるいは付近に火気のある所で
給油したり、フューエルフィルターキャ
ップを開けたりしないでください。

給油中に、エンジンや排気管、サイレン
サーの上にガソリンをこぼさないよう
に注意してください。

ガソリンを飲み込んだり、吸い込んだ
り、目に入れてしまった時は、即座に医
師の手当てを受けてください。

皮膚にこぼれた場合はすぐに石鹸と水
で洗い落とさなくてはなりません。ガ
ソリンで汚れた衣服は、即座に脱ぐ必要
があります。

ガソリンに触れると、皮膚に火傷その
他の深刻な損傷を与える結果になりかね
ません。

⚠ 警告

閉め切った場所でエンジンを始動させ
たり、短時間でもエンジンをかけっぱ
なしにしないでください。排気ガスは有
毒なので、短時間の内に意識が失われ
て死に至る恐れがあります。モーター
バイクは必ず、野外または換気の良い
ところで運転してください。

はじめに－安全第一

ヘルメットと防護服

⚠ 警告

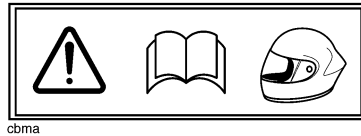
モータバイクに乗る時、ライダーと同乗者は、バイク用のヘルメット、防護メガネ、グローブ、ブーツ、（膝と足首まわりがフィットする）ズボン、明るい色のジャケットを必ず着用してください。派手な色の衣服は、ライダー（または同乗者）を目立たせ、道路上の他の車の運転者達の注意を引くことができるため、より安全です。適切な防護服の着用は、完璧な防護は不可能であるものの、走行中に負傷する危険を低減することができます。

⚠ 警告

頭をケガから守ってしてくれることから、ヘルメットはライディング装備の中で最も大切なものです。ライダー、同乗者とも、頭にぴったりフィットする、かぶり心地の良いヘルメットを慎重に選ばなくてはなりません。鮮やかな色のヘルメットは、ライダー（または同乗者）を目立たせ、通行中の車の運転者達の注意を引くため、より安全です。

事故の際、オープンフェースヘルメットでも防護効果はありますが、フルフェース型の方が効果は上がるでしょう。

より良い視界を得、目を保護するために、常にバイザーや認定ゴーグルを着用してください。



はじめに－安全第一

駐車

！ 警告

モーターバイクから離れる時は、必ずエンジンを止め、イグニッションキーを抜いてください。キーを抜き取ることにより、資格のない人や訓練を受けていない人がバイクを使用するリスクを低減することができます。

モーターバイクを駐車させる時は、必ず以下の点にご注意ください：

モーターバイクのスタンドが上がって転倒するのを防ぐため、ギヤをファーストに入れます。

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。歩行者、動物、子供がモーターバイクに触れる可能性のある場所には駐車しないでください。

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。このような状態の場所に駐車すると、モーターバイクの転倒につながりかねません。

詳しくは、この取扱説明書の「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

部品とアクセサリー

！ 警告

オーナーの皆様にご承知頂きたいのは、「Triumph モーターバイク用として承認している部品、アクセサリー、改造」とは、Triumph 社が正式に承認した部品やアクセサリーを使用し、取付作業は正規ディーラーが行なうことを指していることです。

特に、電装品や燃料システムを取り外したり、あるいは電装品や燃料システムに取り付けなければならない、部品やアクセサリーの取り付けや取り替えは極めて危険です。そのような改造は、安全上の問題を引き起こす恐れがあります。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造は、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で悪影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造、承認されている部品やアクセサリーの取り付けであっても、改造を認可されていない者が行なったために起きた故障に対して、Triumph 社は一切責任を負いません。

はじめに－安全第一

整備 / 装備

！ 警告

本Triumphモーターバイクの正しい操縦や安全な操縦に関して不審な点がある時は、いつでも正規 Triumph デイラーに相談してください。

正しく機能していないモーターバイクを操縦し続けると、故障をいっそう悪化させ、安全性をも損なう恐れがあることを、念頭に置いてください。

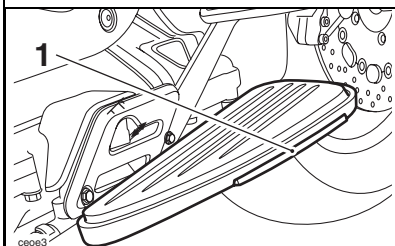
！ 警告

必ず、法律で規定された機器のすべてが装備され、正しく機能しているようにしてください。モーターバイクのライト、サイレンサー、排気系統、騒音防止システムを取り外したり、改造したりすることは、違法となる場合があります。不適当なあるいは不法な改造を行なうと、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

！ 警告

バンクした際、ライダーのフットボードに取り付けてあるバンク角指示器が地面に接触することで、モーターバイクのバンク角が限界に近いことを示しています。それ以上バンク角を下げることは危険です。

危険な角度まで横傾斜するとバイクを不安定な状態にし、制御しきれなくなって事故を起こす恐れがあります。



1. バンク角指示器

！ 警告

モーターバイクが事故に巻き込まれたり、衝突や転倒を起こした場合は、必ず正規 Triumph デイラーで点検、修理を受けてください。どのような事故であってもモーターバイクに損傷を与えている可能性があり、適切に修理されなければ、人身事故に帰することもあり得る、第二の事故につながる恐れがあります。

はじめに—安全第一

ライディング

！ 警告

疲労時、飲酒後あるいは眠気を催すような薬を服用した時は、バイクを運転してはなりません。

アルコール、その他の薬剤の影響を受けている状態で運転するのは違法です。

疲労時、あるいはアルコールや他の薬剤の影響下にある状態で乗車すると、ライダーのモーターバイクを制御し続ける能力が減じ、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

！ 警告

ライダーはバイクの運転免許証を取得していなければなりません。免許なしでモーターバイクを運転するのは違法であり、起訴につながる可能性があります。

免許取得に必要な運転テクニックについて、正規のトレーニングを受けずにモーターバイクを運転することは危険であり、モーターバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあります。

！ 警告

常に安全を心がけながら運転し、この「はじめに」の章の別のところに記載されている防具類を身につけてください。事故に出逢っても、バイクの場合は自動車のように衝撃緩和装置で守られているわけではないことを常に念頭に置いてください。

！ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。悪天候や交通混雑といった、危険な走行状態に陥りやすい状況下では、必ず減速するようにしてください。

！ 警告

常に路面の状態、交通状況、風の状態の変化に注意し、適切に対応してください。二輪車は、事故を引き起こしかねない外的要因に常に左右されます。それらの外的要因には以下のようなものがあります：

- ・ 通過する車両からの横風
- ・ 道路にできた穴、デコボコ道、崩れている道
- ・ 悪天候
- ・ ライダーのミス

操縦特性および操作特性に慣れるまでは、交通量の多い道を避けて、常に節度のあるスピードでモーターバイクを運転してください。絶対に法定制限速度を超えてはなりません。

はじめに－安全第一

ハンドルとフットレスト

警告

ライダーは、いつも両手でハンドルを握りながらバイクをコントロールし続けなくてはなりません。

ハンドルから手を放すと、モーターバイクの操縦性と安定性に悪影響を及ぼし、バイクをコントロールしきれなくなつて事故を引き起こす結果になりかねません。

警告

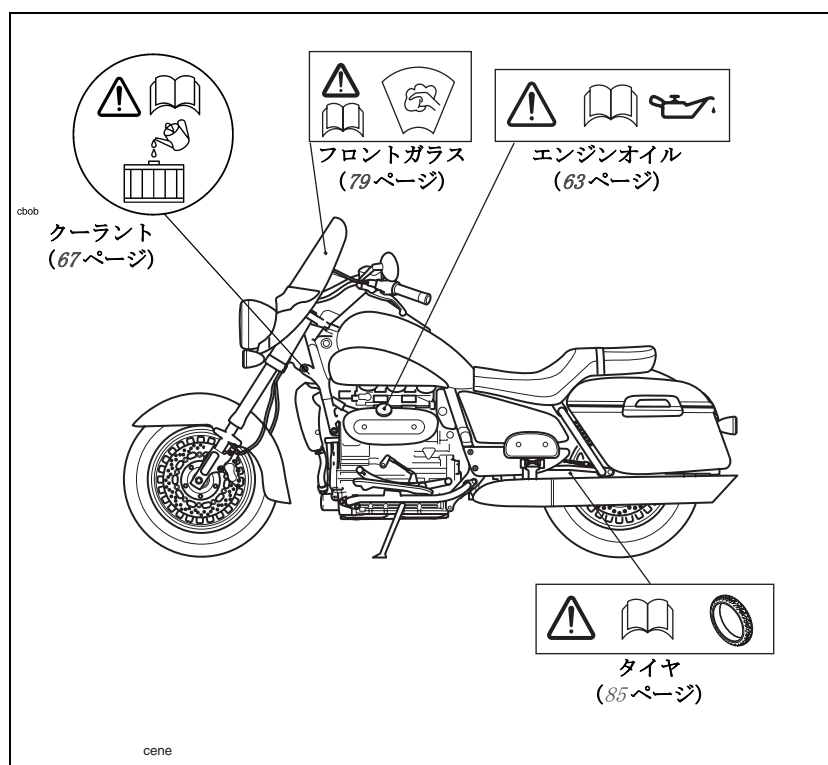
走行中は、ライダーも同乗者も常にフットレストに足をかけていなければなりません。

フットレストを使用することにより、ライダー、同乗者ともに、モーターバイクの部品にうっかり接触する危険や、衣服の一部が巻き込まれて負傷する危険を軽減することができます。

警告ラベル

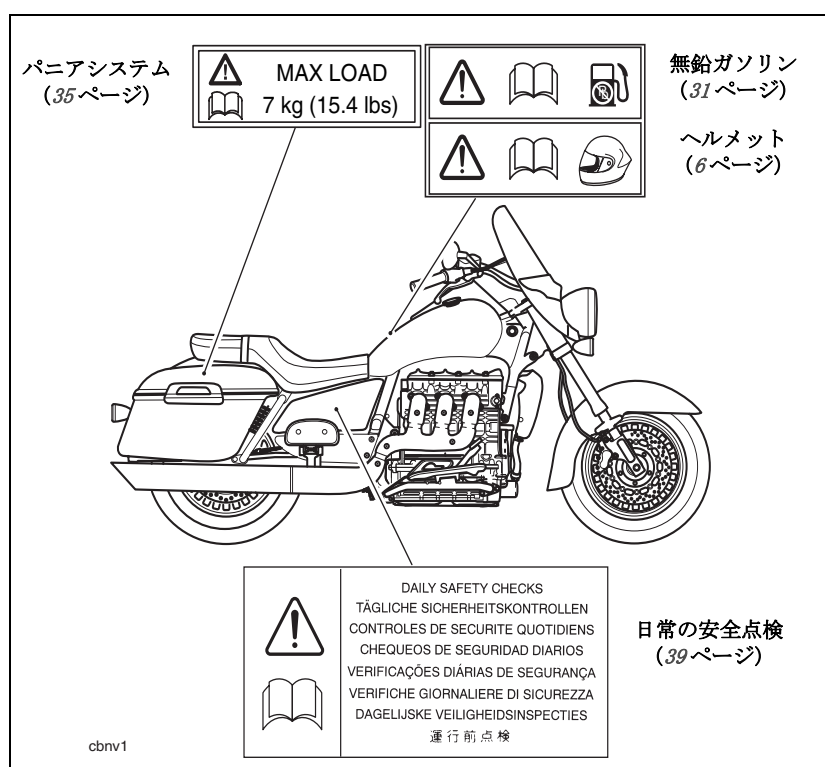
警告ラベルの位置－ Rocket III Touring

このページと次のページに詳述されているラベルは、本取扱説明書に記載されている重要な安全情報に注意を促してもらうためのものです。運転前に必ずラベルを良く読み、ラベルに記載されている内容を理解し、ラベルの内容に従うようにしてください。



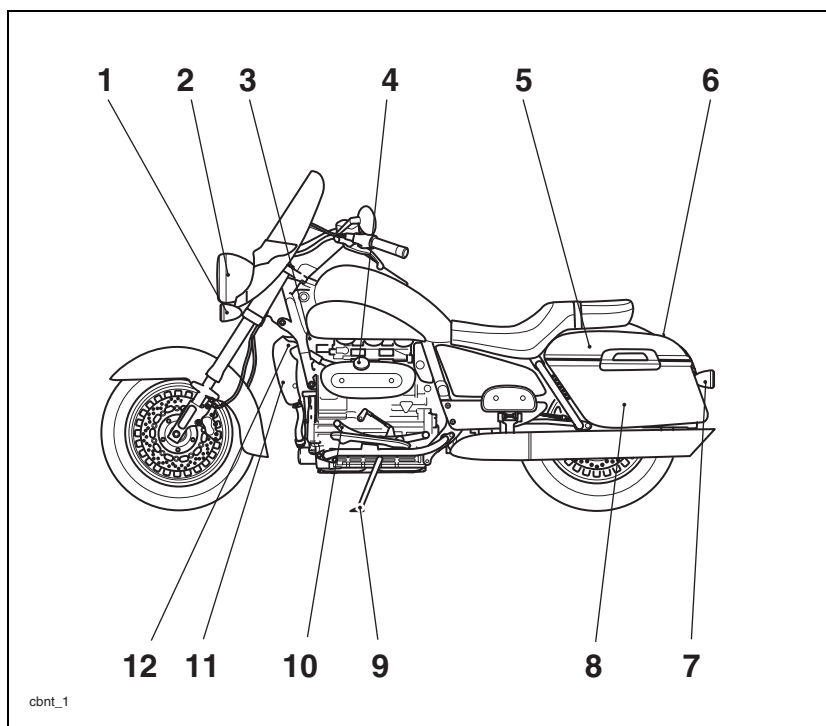
警告ラベル

警告ラベルの位置－Rocket III Touring（続き）



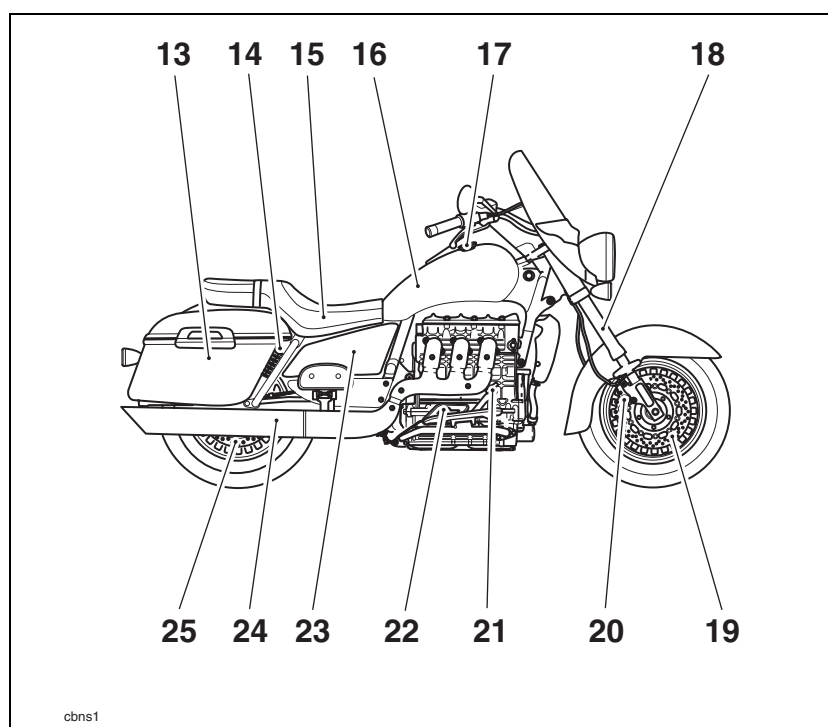
部品の名称

部品の名称



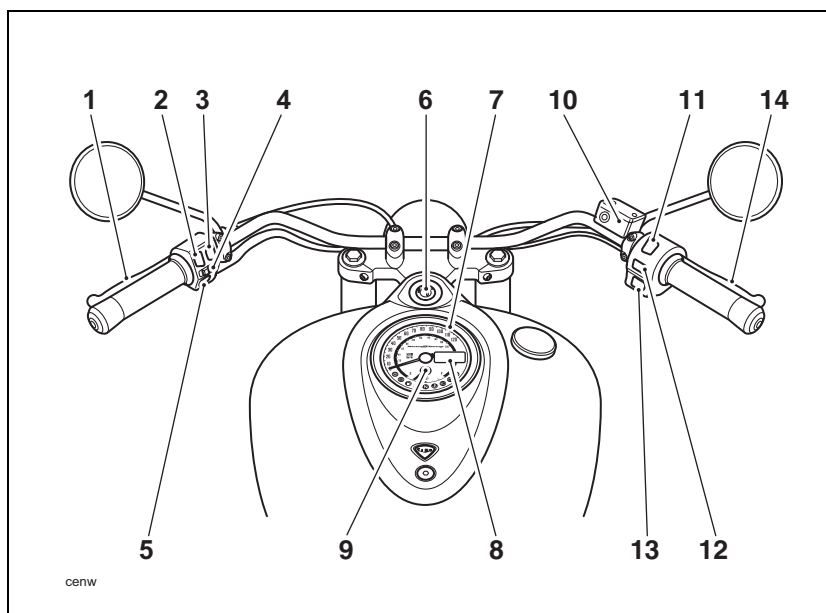
- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. フロントインジケーター | 7. リアインジケーター |
| 2. ヘッドライト | 8. 左パニア |
| 3. クーラント膨張タンク | 9. サイドスタンド |
| 4. オイルフィラーキャップ/ディプス
ティック | 10. ギアチェンジペダル |
| 5. ツールキット (左パニアの中) | 11. ラジエーター |
| 6. リアライト | 12. クーラント圧力キャップ |

部品の名称



- | | |
|-------------------|----------------------------------|
| 13. 右パニア | 20. フロントブレーキキャリパー |
| 14. リアサスペンションユニット | 21. リアブレーキペダル |
| 15. バッテリー (シートの下) | 22. リアブレーキフルードリザーバ |
| 16. 燃料タンク | 23. エンジン管理 ECM (右側のサイドパ
ネルの下) |
| 17. フューエルフィラーキャップ | 24. サイレンサー |
| 18. フロントフォーク | 25. リアブレーキディスク |
| 19. フロントブレーキディスク | |

部品の名称



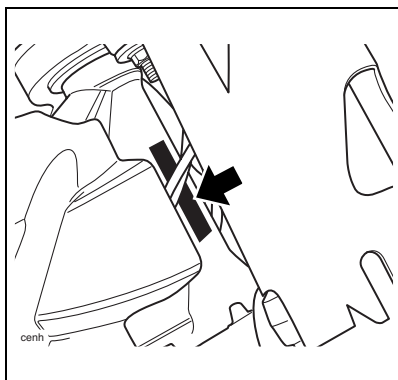
- | | |
|-------------------------|--|
| 1. クラッチレバー | 8. オドメーター / トリップメーター / 時計 / 残燃料ゼロまでの可航距離 |
| 2. ヘッドライトディップスイッチ | 9. 燃料計 |
| 3. フォグランプスイッチ (付いている場合) | 10. フロントブレーキフルードリザーバ |
| 4. インジケータースイッチ | 11. エンジンストップスイッチ |
| 5. ホーンスイッチ | 12. スクロールボタン |
| 6. イグニッションスイッチ | 13. スターターボタン |
| 7. スピードメーター | 14. フロントブレーキレバー |

シリアル番号

シリアル番号

車体識別番号 (VIN)

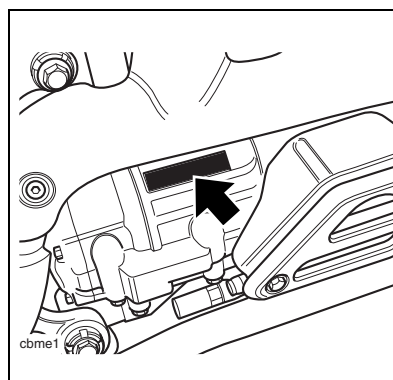
車体識別番号は、フレームのステアリングヘッドエリアに刻印されています。また、右サイドパネルの背後のフレームに鋳で留められているプレートにも表示されています。



以下の空欄に車体識別番号を記入してください。

エンジンシリアル番号

エンジンシリアル番号は、エンジンクランクケースの後方、右側に刻印されています。



以下の空欄にエンジンシリアル番号を記入してください。

一般情報

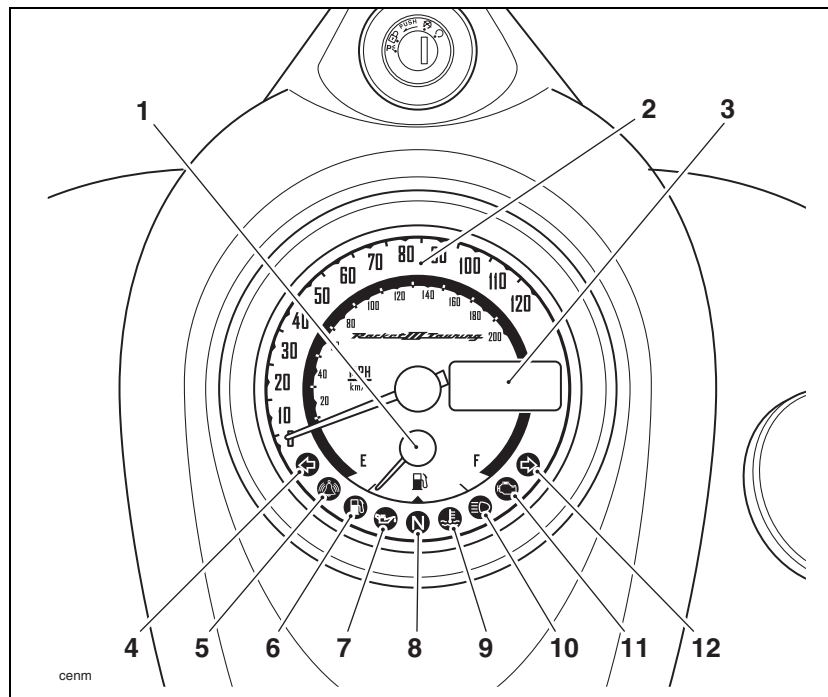
目次

計器盤レイアウト - ABS なし	19
計器盤レイアウト - ABS 付き	20
スピードメーター	21
燃料計	21
オドメーター / トリップメーター / 時計 / 残燃料ゼロまでの可航距離	21
トリップメーターリセット	22
残燃料ゼロまでの可航距離	22
時計の調節	22
警告灯	23
イグニッションキー	25
イグニッションスイッチ / ステアリングロック	26
イグニッションスイッチポジション	26
右ハンドルスイッチ	27
エンジンストップスイッチ	27
スターターボタン	27
左ハンドルスイッチ	28
ヘッドライトディップスイッチ	28
方向指示器スイッチ	28
ホーンボタン	28
燃料の条件 / 燃料補給	29
燃料の等級	29
フューエルタンクキャップ	30
燃料タンクへの給油	31
スタンド	32
サイドスタンド	32
ツールキットと取扱説明書	32
シートリテーナー	33
シートケア	33

一般情報

ウィンドスクリーン	34
ウィンドスクリーンの取り外し方	34
ウィンドスクリーンの取り付け方	34
パニアシステム	35
パニアの取り外し方	35
パニア装着方法	35
慣らし運転	38
安全運転	39
日常の安全点検	39

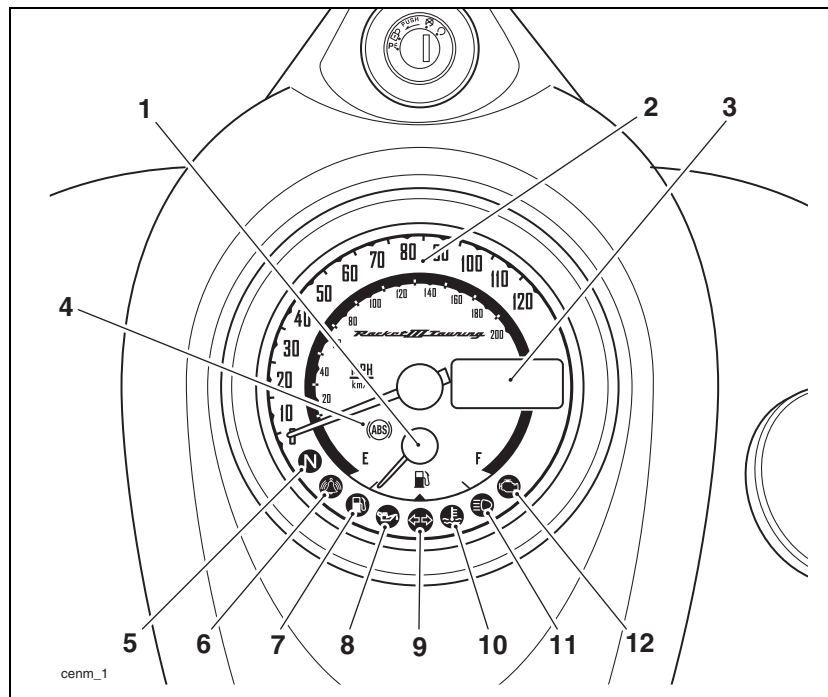
計器盤レイアウト - ABS なし



- | | |
|--|--------------------|
| 1. 燃料計 | 6. 燃料レベル低下表示灯 |
| 2. スピードメーター | 7. 油圧低下警告灯 |
| 3. オドメーター / トリップメーター / 時計 / 残燃料ゼロまでの可航距離 | 8. ニュートラル表示灯 |
| 4. 左ターンインジケーターランプ | 9. クーラント過熱警告灯 |
| 5. アラーム状況表示灯（アラームは取付アクセサリ） | 10. ハイビーム表示灯 |
| | 11. エンジン管理誤作動表示灯 |
| | 12. 右ターンインジケーターランプ |

一般情報

計器盤レイアウト - ABS 付き

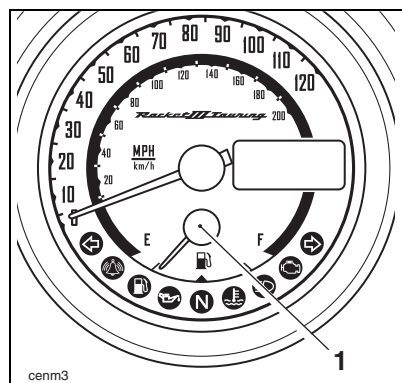


- | | |
|--|------------------|
| 1. 燃料計 | 7. 燃料レベル低下表示灯 |
| 2. スピードメーター | 8. 油圧低下警告灯 |
| 3. オドメーター / トリップメーター / 時計 / 残燃料ゼロまでの可航距離 | 9. 方向指示灯 |
| 4. ABS 警告ランプ | 10. クーラント過熱警告灯 |
| 5. ニュートラル表示灯 | 11. ハイビーム表示灯 |
| 6. アラーム状況表示灯 (アラームは取付アクセサリー) | 12. エンジン管理不具合表示灯 |

スピードメーター

スピードメーターは、モーターバイクの走行速度を表示します。

燃料計



1. 燃料計

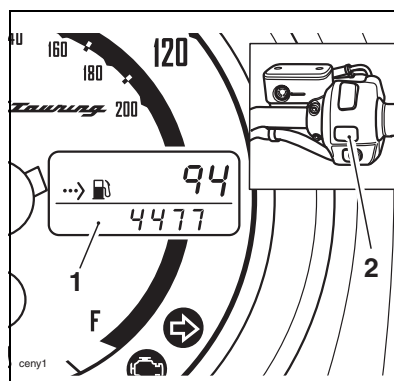
燃料計はタンクに入っている燃料の量を表示します。

タンク内の残存燃料が約 5.0 リッターになると、燃料レベル低下表示灯が点灯します（24 ページ参照）。

給油後、モーターバイクに乗っている場合のみ、燃料計と空になるまでの可航距離に関する情報が更新されます。

乗車姿勢によりますが、最大 5 分かかります。

オドメーター / トリップメーター / 時計 / 残燃料ゼロまでの可航距離



1. オドメーター / トリップメーターディスプレイ / 時計 / 残燃料ゼロまでの可航距離
2. スクロールボタン

オドメーターは、モーターバイクの走行距離の総計を表示します。

トリップメーターはふたつあります。いずれのトリップメーターも、表示部の数字（メーター）を最後にゼロにリセットした時点からのモーターバイクの走行距離を表示します。

警告

モーターバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあるので、トリップメーター表示モードの切り替えたり、運転中にトリップメーターをリセットしたりしないでください。

一般情報

トリップメーター、時計、残燃料ゼロまでの可航距離の表示モードを切り換えるには、「スクロール」ボタンを表示したい画面が現れるまで繰り返し押します。この画面は順番にスクロールします。

- ・ トリップメーター 1
- ・ トリップメーター 2
- ・ 時計
- ・ 残燃料ゼロまでの可航距離

トリップメーターリセット

トリップメーターのいずれかをリセットするには、ゼロにしたいトリップメーターを選んで表示します。それから「スクロール」ボタンを4秒間押し続けてください。4秒経過すると、表示部上のトリップメーターはゼロにリセットされます。

残燃料ゼロまでの可航距離

これは、タンクに残っている燃料で走行できると予測される距離を表示しています。

時計の調節



警告

モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあるので、運転中に時計を調整しないでください。

時計をリセットするには、時計の表示部を選択します。次に「スクロール」ボタンを4秒間押し続け、時計の「時」表示が点滅し始めたら、「スクロール」ボタンから指を放します。

「時」表示をリセットするには、「時」表示が点滅し続けているのを確かめてから、「スクロール」ボタンを押して設定を変えます。ボタンを1回押すごとに、設定がひとけたずつ変わります。ボタンを押したままにすると、画面の数字はひとつずつ増加し続けます。

現在の時間が表示されたら、4秒間「スクロール」ボタンから指を放してください。分表示が点滅し始めます。「分」表示は、「時」表示と同じやり方で調節します。

「時」表示と「分」表示の両方が正しく設定されたら、「スクロール」ボタンから4秒間指を放しておきます。これで表示部の点滅は止まります。

警告灯

油圧低下警告



エンジンがかかっている状態で、エンジン油圧が危険なまでに低下した場合、油圧低下警告灯が点灯します。

⚠ 注意

油圧低下警告灯が点いた場合は、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

油圧低下警告灯が点いている時にエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与える結果になることがあります。

冷却液温度



冷却液の温度が上がり過ぎると、冷却液過熱警告灯が点灯します。

⚠ 注意

冷却液が過熱した状態でエンジンをかけ続けしないでください。エンジンに多大な損傷を与えかねません。



エンジン管理誤作動インジケータランプ

エンジン管理システムの誤作動表示灯は、イグニションスイッチをオンにした時に（それが機能していることを示すために）点灯しますが、エンジンがかかっている時に点灯することはありません。

エンジンがかかっている時に誤作動表示灯が点灯した場合は、エンジン管理システムによってコントロールされている、ひとつ又は複数のシステムに故障が生じたことを示しています。そのような状況になったとしても、エンジンがかからないほど深刻な故障でなければ、走行を続けられるようにエンジン管理システムがスイッチを「リンプ・ホーム」モードに切り替えます。

⚠ 警告

誤作動表示灯が点灯している時は、スピードを落とし、必要以上に長く乗り続けしないでください。故障は、エンジン性能、排気物質、燃費に悪影響を及ぼす恐れがあります。エンジン性能の低下は、危険なライディングコンディションの原因となることがあり、バイクは制御不能になって事故を招く恐れがあります。できるだけ早く正規Triumphディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

一般情報

 **方向指示器**
指示器のスイッチを左または右に回すと、それに対応している方向指示灯が、方向指示器と同じテンポで点滅します。

 **ハイビーム**
ハイビーム警告ランプは、イグニッションスイッチがオン、ヘッドライトディップスイッチが「ハイビーム」にセットされている時に点灯します。

 **ニュートラル**
ニュートラル警告ランプは、ギアがニュートラル（ギアが選択されていない）の状態であることを示します。イグニッションスイッチがONの状態ではギアをニュートラルにすると、ニュートラル警告灯が点灯します。

 **燃料低下**
タンク内の残存燃料が約 5.0 リッターになると、燃料レベル低下表示灯が点灯します。燃料レベル低下表示灯が点灯すると、オドメーター/トリップメーターディスプレイ/時計 / 残燃料ゼロまでの可航距離の表示部は、自動的に空になるまでの可航距離に関する情報の表示に変わります。元の表示に戻すには、「スクロール」ボタンを表示したいディスプレイが現れるまで繰り返し押してください。

 **アラーム**
アラームランプは、アクセサリアラームの解説に記されている条件に合致したとき点灯します。

ABS（アンチロックブレーキシステム）インジケーターランプ

（ABS が装備されているモデルのみ）

 ABS インジケーターランプが点いた時は、ABS 機能が使えないことを示しています。エンジンをスタートしてから時速 10 km/h のスピードに達するまでの間、ランプが点灯しているのが正常な状態です。不具合が発生しない限り、エンジンを再びスタートさせるまで2度と点灯することはありません。

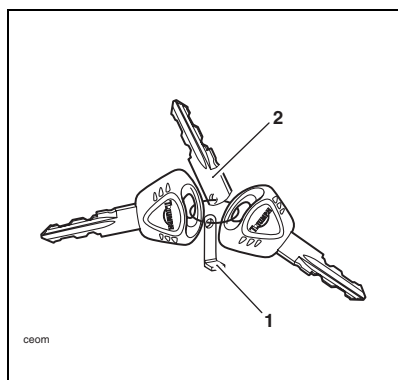
それ以外で走行中にインジケーターランプが点灯するのは、ABS に誤動作が生じたからであり、点検が必要です。

警告

ABS が機能しないと、ブレーキシステムがノンABS型ブレーキシステムとして作動します。インジケーターランプが点灯したままの状態では、長く走行を続けしないでください。できるだけ早く正規 Triumph デイラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、バランスを崩して事故を招く恐れがあります。

45 ページのブレーキ操作についても参照してください。

イグニッションキー



1. キーナンバータグ
2. アラームシステム用の三番目のキー

イグニッションキーは、ステアリングロック/イグニッションスイッチを作動させるだけでなく、パニアロックを操作する際にも必要です。

モーターバイクは出荷の際に、2つのイグニッションキーとキー番号を記したタグを一緒にお届けします。キーナンバーを書き留め、スペアキーとキーナンバータグをモーターバイクから離れた安全な場所に保管してください。また、フォップのない三番目のキーがあります。これはアクセサリアラームシステム用です。

また、アクセサリウィンドスクリーンロックと同乗者用背もたれのロックとして使えるロックが支給されています。これらのロックを装着した場合、操作はイグニッションキーで行ないます。

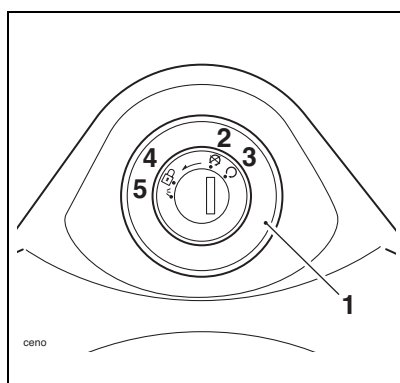
最寄りの正規 Triumph ディーラーは、キーナンバーのデータに基づいてカットした代替キーを供給したり、オリジナルをマスターキーに使用して新しいキーをカットしたりできます。

⚠ 注意

スペアキーをモーターバイクと一緒に保管しないでください。安全確保の面で好ましくありません。

一般情報

イグニッションスイッチ / ステアリングロック



1. ステアリングロック
2. OFF ポジション
3. ON ポジション
4. LOCK ポジション
5. PARK ポジション

イグニッションスイッチポジション

これはポジションが4つある、キー作動型スイッチです。キーはOFF、LOCK、またはP (PARK) ポジションにある時のみ、スイッチから抜き取ることができます。

ロックするには: キーを OFF ポジションに回し、次に左側にステアリングを回し、キーを押してから放し、最後に LOCK ポジションに回してください。

駐車: LOCK ポジションから P ポジションにキーを回してください。ステアリングはロックされたままで、テールランプ、ライセンズおよびポジションライトが点灯します。

注記:

- ・ ステアリングロックを長い間 P ポジションにセットしたままにしないでください。バッテリーが上がる原因となります。

⚠ 警告

モータバイクから離れる場合、安全のために、必ずイグニッションスイッチを LOCK または P ポジションにしてからキーを抜いてください。

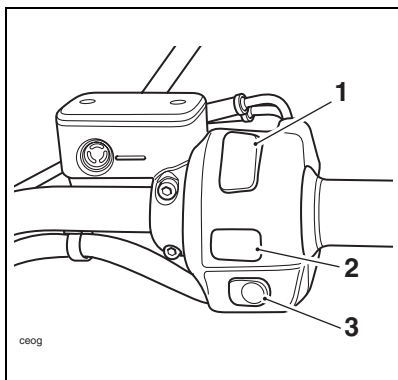
モータバイクを無免許で乗り回した場合、ライダー自身や他の道路使用者、歩行者の負傷の原因となり、バイクの損傷にもつながりかねません。

⚠ 警告

キーが LOCK や P ポジションにあると、ステアリングがロックされます。

ステアリングがロックする可能性がありますので、運転中に決してキーを LOCK または P ポジションに回さないでください。ステアリングがロックされると、バイクは制御不能に陥って事故を招くことがあります。

右ハンドルスイッチ



1. エンジンストップスイッチ
2. スクロールボタン
3. スターターボタン

エンジンストップスイッチ

モーターバイクを運転するには、イグニッションスイッチを ON にして、エンジンストップスイッチを RUN ポジションにする必要があります。

エンジンストップスイッチは非常時に使います。エンジンを停止しなければならないような非常事態が発生した場合、エンジンストップスイッチを STOP ポジションに回してください。

注記：

- ・ エンジンストップスイッチはエンジンを停止させますが、電装回路をすべてオフにするわけではないので、バッテリーが上がってエンジンの再始動を困難にする恐れがあります。通常は、エンジンを止めるのに、イグニッションスイッチだけを使うべきです。

⚠ 注意

電装コンポーネントを損ない、バッテリーが放電する恐れがあるので、エンジンが回転していない時は、イグニッションスイッチを ON ポジションのままにしないでください。

スターターボタン

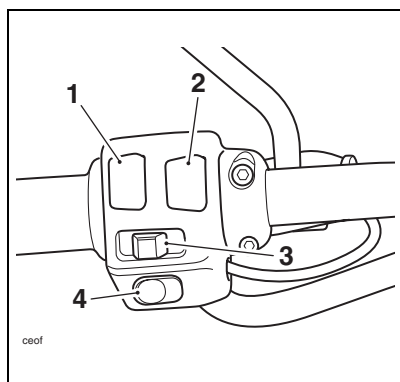
スターターボタンは電動スターターを作動させます。スターターを作動させるには、クラッチレバーを握ってください。

注記：

- ・ クラッチレバーを握っても、サイドスタンドが下りていてギアが入っていれば、スターターは作動しません。

一般情報

左ハンドルスイッチ



1. ヘッドライトディップスイッチ
2. フォグランプスイッチ（付いている場合）
3. 方向指示器スイッチ
4. ホーンボタン

ヘッドライトディップスイッチ

ヘッドライトディップスイッチを使ってハイビーム、ロービームの切り換えができます。ハイビームにする時は、スイッチを前方に押します。ロービームにする時は、スイッチを後方に押します。ハイビームに入れると、ハイビーム表示灯が点きます。

注記：

- ・ このモデルには、ライト用のオン / オフスイッチは付いていません。ヘッドライト、テールライト、ライセンスプレートライトはすべて、イグニッションを ON ポジションにすると自動的に作動します。

方向指示器スイッチ

注記：

- ・ 本モーターバイクには指示器自動停止装置が装備されています。この装置は、方向指示器が8秒間作動した後、アクティブになります。

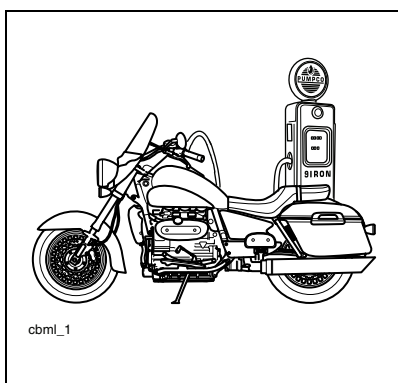
方向指示器スイッチを左または右に押してから放すと、対応している方向指示器が点滅します。

指示器自動停止装置は、方向指示器が8秒間作動した後、アクティブになります。方向指示器をオンにしてから8秒が経過し、モーターバイクが65メートル以上走行した時、指示器自動停止装置は自動的に指示器を止めます。指示器は手作業で止めることもできます。指示器を手作業で止めるには、指示器スイッチを中央の位置して押してから放してください。

ホーンボタン

イグニッションスイッチが ON になっている状態で、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

燃料の条件 / 燃料補給



燃料の等級

お買い上げのTriumphのエンジンは無鉛燃料を使うように設計されており、正しい等級の燃料を使った時に最高の性能を発揮します。必ずオクタン価 91 RON 以上の無鉛燃料を使用してください。

注意

多くの国々で、本モデルの排気装置に、排気ガスの排出量低減に役立つ、触媒作用コンバーターを取り付けるサービスを行なっております。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

注意

国、州、地域によっては有鉛ガソリンの使用は違法とされています。有鉛ガソリンは、触媒作用コンバーター（装備されている場合）に損傷を与えることがあります。

警告

燃料補給関連の危険を減らすため、以下の安全確保のための指示に従ってください：

ガソリン（燃料）は高可燃性で、一定の状況下では爆発する可能性があります。燃料補給の際はイグニッションスイッチを OFF にしてください。

禁煙厳守。

携帯電話は使用しないでください。

給油場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

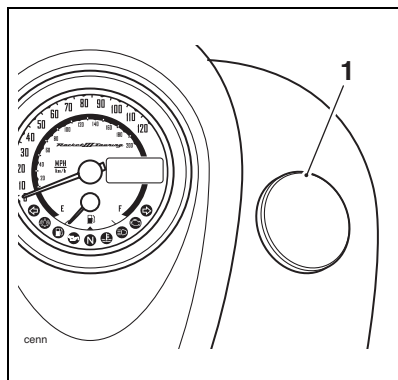
燃料がフィラーネックに来るほどの満タンに、決してしないでください。太陽熱やその他の熱源からの放射熱で燃料が膨張してあふれ出し、火災を引き起こす恐れがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められているか点検してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

一般情報

フューエルタンクキャップ



1. フューエルタンクキャップ

燃料タンクキャップを開けるには、キャップを反時計回りに回し、フィラーネックから取り外します。

キャップを閉めるには、キャップをタンクフィラーネックに合わせ、フィラーネックが密閉されるまでキャップを時計回りに回します。完全に締めきった時点でラチェット装置が働き、キャップの外側の部分だけが内部とは無関係に空まわりしてキャップの締め過ぎを防ぎます。

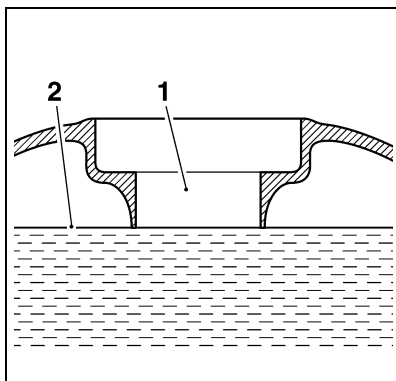
燃料タンクへの給油

雨天時やほこりっぽい状態の時は、給油を避けてください。大気中の異物が燃料を汚染する恐れがあります。

⚠ 注意

汚染した燃料は、燃料系統のコンポーネントに損傷を与えかねません。

燃料タンクへの給油は、流失を防ぐためにゆっくり行なってください。燃料レベルがフューエルネックの最下部に到達するまで給油しないでください。これは、エンジンからの放射熱や直射日光の熱でタンク内の燃料が膨張しても、膨張を許容できる空間が十分残っているようにするためです。



1. フューエルフィラーネック
2. 燃料レベルの上限

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

⚠ 警告

タンクをいっぱいになると、燃料の流出を招く恐れがあります。

燃料をこぼした場合は、きれいに拭き取り、使った布は安全な方法で処分してください。

エンジン、排気管、タイヤ、その他のモーターバイクの部分に燃料をこぼさないよう注意してください。

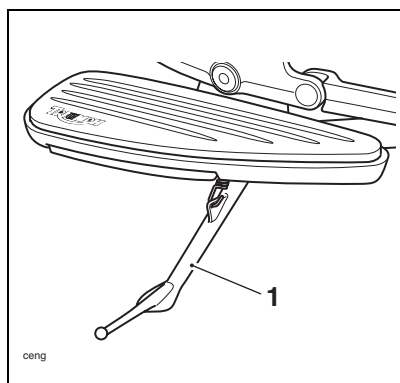
ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

タイヤ付近あるいはタイヤ上に燃料をこぼすと、タイヤの路面グリップ能力が落ちます。モーターバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがある、危険な走行状態になります。

一般情報

スタンド

サイドスタンド



1. サイドスタンド

本モーターバイクにはサイドスタンドが装備されており、バイクを斜めにして駐車できます。

警告

本モーターバイクには、サイドスタンドが降りた状態で走行するのを防ぐために、インターロックシステムが取り付けられています。

絶対に、サイドスタンドが降りた状態で走行したり、インターロック装置の機能を妨害したりしないでください。モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を引き起こすことがあるからです。

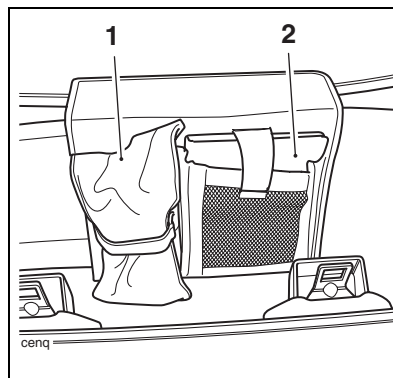
注記：

- ・ サイドスタンドを使用する時は、必ずハンドルを左に回し切り、バイクをファーストギアに入れたままにしておいてください。

サイドスタンドを使用した時は必ずライディング前に、モーターバイクにまたがったらずぐスタンドが完全に戻していることを確認してください。

安全な駐車の仕方に関する解説は「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

ツールキットと取扱説明書

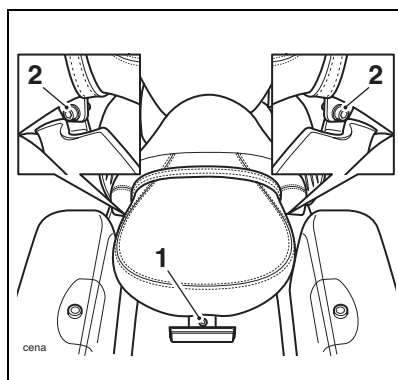


1. ツールキット

2. 取扱説明書

ツールキットと取扱説明書は、左パニアの専用ポーチの中にあります。

シートリテーナー



1. 後部固定具とレフレクター

2. 側面固定具

シートを取り外すには、レフレクターと一緒に後部固定具と両サイドの固定具を取り外します。シートの後部を持ち上げ、モーターバイクから完全に取り外します。

シートケア

シートやシートカバーを傷つけないように、シートを落としたり、シートやシートカバーを傷つけそうな面に立てかけたりしないでください。

クリーニング情報に関しては、100ページを参照してください。

⚠ 注意

シートやシートカバーを傷つけないようにするため、シートを落とさないでください。シートやシートカバーをモーターバイクに立てかけたり、傷つけそうな面に立てかけないでください。シートは、シートカバーを上向けにして、柔らかい布でカバーしたきれいで平らな面においてください。

シートカバーを傷つけたり、染みをつくったりする可能性のあるものをシートの上においてはなりません。

シートを再装着するには、シートの突縁を燃料タンクの下にはめ込み、側面固定具を取り付けて **15 Nm** で締め付けます。

反射板を後部固定具で取り付け、**9 Nm** で締め付けます。

⚠ 警告

走行中にシートが外れるのを防ぐために、取り付けた後で必ずシートをつかんでぐっと引っ張り上げてみてください。シートがゆるんでいたり外れていると、バイクの制御が効かなくなり、事故を招く恐れがあります。

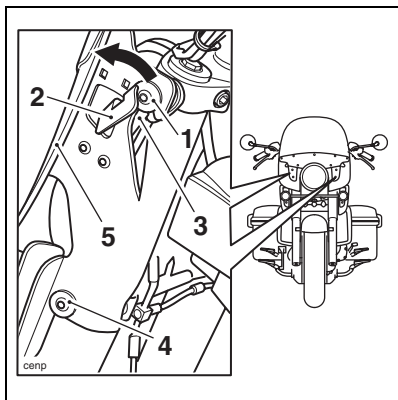
一般情報

ウィンドスクリーン

注記：

- ・ 本モーターバイクに装着されているウィンドスクリーンは、ツールを使わなくても取り外せます。

ウィンドスクリーンの取り外し方



1. 上部取り付け金具
2. ロックハンドル
3. ロック
4. 下部取り付け金具
5. ウィンドスクリーン

ウィンドスクリーンを取り外すには、前輪を前に両脚を開いて立ちます。ロックハンドルをウィンドスクリーンの方に引っ張って、上部取り付け金具からロックを外します。モーターバイクから完全に取り外すために、ウィンドスクリーンを上部および下部取り付け金具から外れるまで持ち上げます。

ウィンドスクリーンの取り付け方

ウィンドスクリーンを装着するには、ウィンドスクリーンの下側を慎重に指示器の背後に滑り込ませます。ウィンドスクリーンのはめ込みスロットを、フォーク上の上部および下部取り付け金具に合わせます。

注記：

- ・ ロックがかかると、カチッという音が聞こえます。

ウィンドスクリーンを、上部取り付け金具のロックが所定の位置にカチッと音をたてて納まるまで、押し下げます。

上部取り付け金具のロックが両方ともかかっていて、ウィンドスクリーンが固定されていることを確かめます。

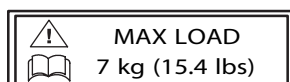
⚠ 警告

走行中にウィンドスクリーンが外れるのを防ぐために、取り付けた後で必ずウィンドスクリーンをつかんでぐっと引っ張り上げてみてください。ウィンドスクリーンロックが正しく固定されていなければ、ウィンドスクリーンはロックから外れてしまいます。ウィンドスクリーンがゆるんでいたりと外れていると、バイクの制御が効かなくなり、事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ウィンドスクリーンを装着した後または取り外した後は、モーターバイクを交通のない安全な場所で運転し、新しいハンドリング特性になじむようにしてください。モーターバイクの新しい特性になじんでいない状態で運転すると、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

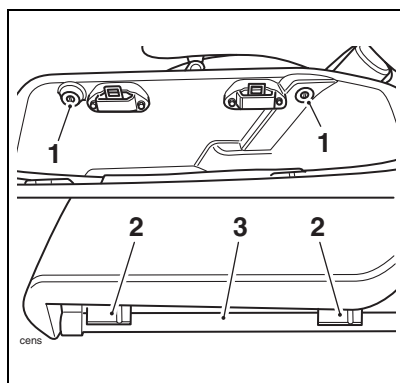
パニアシステム



パニアの取り外し方

注記：

- ・ 左側または右側のパニアの取り外しあるいは取り付けは、同じ手順で行なうことができます。



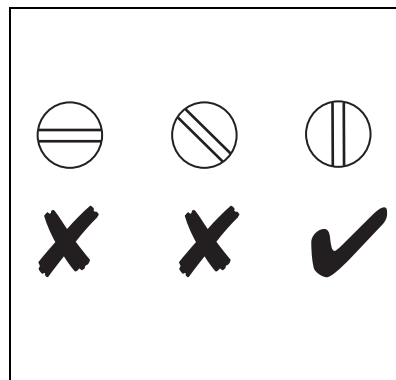
1. クイックリリース固定具
2. パニア下部取り付け金具
3. パニアレール

パニアレールからパニアを外すには、パニアのフタを開けて2個のクイックリリース固定具を90° 反時計回りに回します。パニアを持ち上げてパニアレールから外します。

パニア装着方法

パニアをパニアレールに接触するように置きます。パニアの下部取り付け金具がパニアレールに対して正しく配置されており、クイックリリース固定具がパニアレールに適切にはめ込まれていることを確認してください。

2個のクイックリリース固定具を90° 時計回りに回してパニアをレールにロックします。固定具のスロットは、ロックされていることを示す垂直方向でなければなりません。



正しくロックされているパニアクイックリリース固定具



警告

必ず、パニアが固定されており、クイックリリース固定具がロックされていることを確認してください。荷かごがゆるんでいたり外れていると、バイクの制御が効かなくなり、事故を招く恐れがあります。

一般情報

⚠ 警告

必ず、パニアのふたが両方のラッチでしっかりと閉じられていることを確認してください。パニアのふたが開いているとモーターバイクは不安定な状態になり、制御しきれなくなつて事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

パニアごとの最大安全積載量は 7 kg です。この重量制限を絶対に超えないでください。超えた場合、モーターバイクは不安定になり、制御不能に陥つて事故を招く恐れがあるからです。

⚠ 警告

積載の仕方が不適当な場合、事故につながる危険な走行状態を引き起こしかねません。

積載する荷物は、必ずモーターバイクの両側に等しく重量がかかるように振り分けてください。モーターバイクが走行中に荷物が動かないように、適切に固定された状態であることを確認してください。

荷物が安全な状態であるか、たえずチェックしてください(バイクの走行中は不可)。また、必ず、荷物がモーターバイクの最後部からはみ出すことのないようにしてください。最大車両積載重量の 220 kg を絶対に超えないようにしてください。

最大積載重量とは、ライダー、同乗者、取り付けられたアクセサリ、(入っていれば)パニアの中の荷物などの合計重量です。

⚠ 警告

パニアを装着したり取り外したりした後、モーターバイクを交通のない安全な場所で運転し、新しいハンドリング特性になじむようにしてください。モーターバイクの新しい特性になじんでいない状態で運転すると、制御不能に陥つて事故を招く恐れがあります。

 警告

アクセサリを装備したバイクやペイロードを運搬するモーターバイクは、絶対に時速 130 km/h 以上のスピードで運転しないでください。

上記のいずれか/両方が該当する状態の時は、たとえ法定最高速度の範囲内であっても、時速 130 km/h を超える速度での運転を試みてはなりません。

アクセサリおよび/またはペイロードがあると、モーターバイクの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターバイクの安定性に生じる変化を考慮に入れなかった場合、バイクのコントロールが妨げられて、事故につながる恐れがあります。

許可されていないアクセサリの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターバイク全体のコンディション、悪路や悪天候などの場合、絶対制限速度が時速 130 km/h 以下になることを忘れないでください。

 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなつて事故を引き起こすことがあります。

一般情報

慣らし運転

「慣らし運転」とは、新車をスタートしてから最初の数時間起こう運転をいいます。

特に、コンポーネントが新しい時は、エンジンの内部摩擦は大きくなります。その後エンジンを使い続けることにより、コンポーネントが「ベッドイン」され、この内部摩擦は著しく低減されます。

慣らし運転期間中は慎重にすることによって、排ガス量を低減させ、最高の性能発揮、燃料節約、エンジンその他、モーターバイクの構成部品の耐用年数延長を実現します。

最初の 800 km :

- ・ フルスロットルにしないでください。
- ・ 常にエンジン速度を高速に保つことは避けてください。
- ・ 高速、低速にかかわらず、長時間一定のスピードで走行することは避けてください。
- ・ 荒っぽい始動、急停止、急激な加速は、非常時以外は避けてください。
- ・ 最高速度の 4 分の 3 を超えるスピードで走行しないでください。

800 から 1500 km まで :

- ・ エンジン速度に関して、短時間ならレブリミットまで徐々に上げることができます。

慣らし運転期間中と期間終了後の両方 :

- ・ エンジンが冷えている時は回転速度を上げ過ぎないこと。
- ・ エンジンに負担をかけないこと。必ず、エンジンが「苦悶」し始める前に低速ギヤに切り換えてください。
- ・ 不必要にエンジン速度を上げて走行しないこと。ギアをチェンジアップすることは、燃料消費量や騒音の低減、環境保護に役立ちます。

安全運転



日常の安全点検

毎日、走行する前に以下の項目を点検してください。点検により運転が安全で確実なものになり、点検時間も最小限ですみます。

点検を実施中に異常が見つかった場合は、モーターバイクを安全な作動状態に戻すのに必要な処置を講ずるため、「整備と調整」の章を参照するか最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談してください。



毎日、走行する前にこれらの点検を行なうことを怠ると、モーターバイクに多大な損傷を与えるか、重大な人身事故を招く結果になりかねません。

点検：

燃料：タンクに十分あるか、燃料漏れはないか（29 ページ）。

エンジンオイル：オイルゲージ上のレベルは適切か。必要に応じて正しい仕様のオイルを補充。エンジン、オイルタンクまたはオイルクーラーからの漏れがないか（63 ページ）。

ファイナルドライブ：オイル漏れがないか（ページ 84）。

タイヤ / ホイール：空気圧は適正か（冷寒時）。トレッドの深さ / 磨耗状態、タイヤ / ホイールの損傷、パンクなど（85 ページ）。

ナット、ボルト、固定部品：ステアリングとサスペンションの構成部品、アクスル、すべての制御装置がきちんと締め付けられ、固定されているかを目視点検。ゆるんだり / 傷んでいる固定具がないか、全体的に点検。

ステアリングの動き：スムーズに動き、ロックとロックの間に遊びがないか。コントロールケーブルに引っかかりがないか（80 ページ）。

ブレーキ：ブレーキレバーを引き、ブレーキペダルを踏んで、ブレーキの利きが適切かを点検。ブレーキが利くまでのレバー / ペダルの遊びが大きすぎないか、ブレーキをかけている時にスポンジーな感触があるかを点検（75 ページ）。

ABS が装備されているモデルについて：発車してからのスピードが時速 10 km/h を超えた時点で、ABS 警告ランプが消灯したか確認してください（24 ページ）。

ブレーキパッド：すべてのパッドに 1.5 mm 以上のライニングがなければならない（75 ページ）。

一般情報

ブレーキフルードレベル:ブレーキフルードの漏れがないか。ブレーキフルードの液面は、両方のリザーバに付けられた「MAX」と「MIN」のマークの間にあるか（77ページ）。

フロントフォーク:動きがスムーズか。フォークシールからの漏れはないか（82ページ）。

スロットル:スロットルグリップの遊びが2 - 3 mm あるか。スロットルグリップは引っかかりなしにアイドルポジションに戻るか（71ページ）。

クラッチ:スムーズに作動するか、ケーブルの遊びは適切か（74ページ）。

クーラント:クーラントに漏れはないか。膨張タンク内のクーラントレベルを点検（エンジンが冷えている時に）（68ページ）。

電装品:すべてのライトとホーンが適切に機能するか（27ページ）。

エンジン停止:ストップスイッチでエンジンが停止するか（42ページ）。

スタンド:バネの張力で完全に上の位置まで戻るか。リタースプリングが弱くないか、傷んでいないか（32ページ）。

モーターバイクの運転

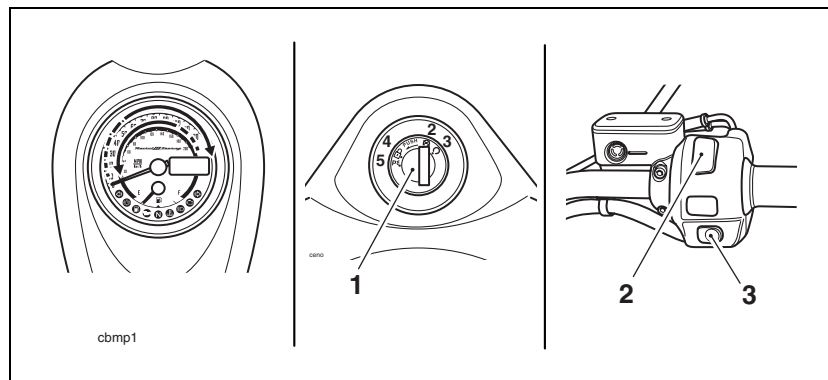
モーターバイクの運転

目次

エンジンの停止	42
エンジンの始動	43
発車	44
ギアチェンジ	44
ブレーキ操作	45
ABS （アンチロックブレーキシステム） 装備モデルのみ	47
駐車	48
高速走行の際の注意	50
一般事項	50
ステアリング	50
荷物	50
ブレーキ	51
タイヤ	51
燃料	51
エンジンオイル	51
ファイナルドライブオイル	51
クーラント	51
電装品	51
その他	51

モーターバイクの運転

エンジンの停止



1. イグニッションスイッチ
2. エンジンストップスイッチ
3. スターターボタン

注記：

- ・ サイドスタンドを使用する時は、必ずハンドルを左に回し切り、バイクをファーストギアに入れたままにしておいてください。

固く平坦な地面にモーターバイクを置き、サイドスタンドで支えてください。

スロットルを完全に戻します。

ニュートラルを選びます。

イグニッションスイッチをオフにします。

駐車する場合は：－

ステアリングをロックします。

キーを抜き取ります。

ファーストギアに入れます。

安全な駐車の仕方について（48 ページを参照）。

⚠ 注意

エンジンは通常、イグニッションスイッチをOFFポジションにして停止させてください。エンジンストップスイッチは、非常時にのみ使います。エンジン停止の状態ではイグニッションスイッチをオンにしたままにしないでください。電装系統に損傷を与えかねません。

モーターバイクの運転

エンジンの始動

エンジンストップスイッチがRUNポジションにあることを確認してください。

確実にギアをニュートラルに入れてください。

イグニッションスイッチをオンにします。

注記：

- ・ **イグニッションがオンになると、計器警告灯が点灯してから消灯します（エンジンがかかるまで点灯し続けるものを除きます—詳細はページ 23 の警告灯を参照してください）。**

クラッチレバーを切ります。

スロットルを全閉にした状態で、エンジンがかかるまでスタータボタンを押し 続けてください。

！ 警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排ガスは有毒です。短時間の内に意識を失って死を招く恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

！ 注意

スターターを5秒以上継続して作動させないでください。スターターモーターが過熱してバッテリーが上がってしまうことがあるからです。スターターを繰り返し作動させる場合は、モーターが冷え、バッテリーのパワーが回復するまで15秒の間隔を置いてください。

エンジンを長い間アイドル状態にしておかないでください。過熱に至る恐れがあり、エンジン損傷の原因となる場合があります。

！ 注意

油圧低下警告灯は、エンジンが動き始めたらまもなく消えるはずですが。

エンジン始動後も油圧低下警告灯が消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与えることがあります。

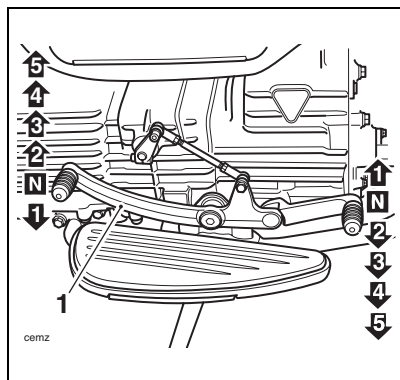
- ・ 本モーターバイクにはスターターロックアウトスイッチが付いています。このスイッチは、サイドスタンドが下っていてギアがニュートラルに入っていない時に、電動スターターが作動するのを妨げます。
- ・ エンジンが回転していてギアがニュートラルになっていない時にサイドスタンドを伸ばすと、エンジンはクラッチの位置に関係なく停止することがあります。

モーターバイクの運転

発車

クラッチレバーを切ってファーストギアを選びます。スロットルを少し開き、クラッチレバーをゆっくりつなげます。クラッチがかみ合い始めたら、スロットルをもう少し開け、エンストを起こさない程度にエンジンのスピードを上げます。

ギアチェンジ



1. ギアチェンジレバー

クラッチレバーを切りながらスロットルを戻します。ギアを切り換えて一段上げるか下げるかします。クラッチレバーをつなげながら、スロットルを半開きにします。ギアチェンジをする時は、必ずクラッチを使ってください。

⚠ 警告

フロントホイールが浮き上がり（ウィリー）、リアタイヤにブレーキングトラクションがかかるので（空転）、ローギアでのスロットルの全開や急開は避けてください。

本モーターバイクに慣れていない場合は、スロットルを慎重に開いてください。「ウィリー走行」やトラクションの低減は、モーターバイクを制御不能にし、事故を引き起こすことがあるからです。

注記：

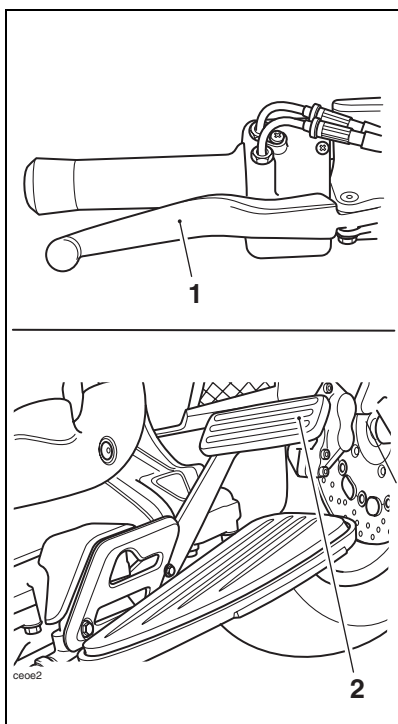
- ギアチェンジの仕組みは「ポジティブストップ」タイプです。つまり、ギアチェンジペダル/レバーを1回動かす毎に、ギアは上か下の方向に1段ずつ切り換わる仕組みです。

⚠ 警告

高速走行中に低速ギアに切り換えしないでください。エンジン回転数が過多になることがあります。これは後輪をロックしてバイクを制御不能に陥らせ、事故を招く可能性があります。エンジンも損傷を受けかねません。エンジン速度を確実に落として、低速ギアへの切り換えを行なう必要があります。

モーターバイクの運転

ブレーキ操作



1. フロントブレーキレバー
2. リアブレーキペダル

⚠ 警告

ブレーキをかける時は、以下の事を
守ってください：

モーターバイクの速度を落とすために
クラッチを噛み合わせたままで、スロッ
トルを完全に閉じてください。

モーターバイクが完全に停止した時、ギ
アはファーストに入っているよう、ギア
を一段ずつシフトダウンしてください。

停止する時は、必ず両方のブレーキを同
時にかけてください。普通は、フロント
ブレーキはリアブレーキより少し強め
にかける必要があります。

ギアを低速に切り換えるかクラッチを
完全に切ってください。エンストを起こ
さないようにするためです。

ブレーキは絶対にロックさせないでく
ださい。モーターバイクを制御しきれな
くなり、事故を引き起こしかねません。

⚠ 警告

急ブレーキをかける時は、ギアのシフト
ダウンは無視し、横滑りすることなく前
後のブレーキを可能な限り強くかける
ことに集中してください。ライダーは、
車の通らない所で急ブレーキのかけ方
を練習しなくてはなりません。

(ABS 警告を参照)

Triumph は、ライダー全員に教習を受け
ることをお勧めします。教習では安全な
ブレーキ操作についてのアドバイスが
受けられます。間違ったブレーキテク
ニックは、バイクを制御不能に陥らせ事
故を招く恐れがあります。

モーターバイクの運転



警告

安全を確保するため、ブレーキ操作、加速、コーナリングには充分注意を払ってください。不注意な行為はコントロールを失わせ、事故のもととなる可能性があります。フロント又はリアブレーキの一方だけを使った場合、全体的なブレーキ性能は低下します。過度にブレーキをかけると前後いずれかの車輪をロックさせる恐れがあり、バイクの制御性が低下して事故のもととなりかねません。

できれば、コーナーに入る前に速度を落とすかブレーキをかけてください。コーナリング半ばでスロットルを閉めたりブレーキをかけると、車輪がスリップする恐れがあり、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

濡れた路面、雨天時、ゆるんだ路面を走行している時は、操縦および停止能力が低下することがあります。このような状況下では、動作はことごとくぬめらかでなくてはなりません。急激な加速、ブレーキ、コーナリングは、コントロールを失わせ、事故のもととなりかねません。



警告

長く急な坂道を下る時は、ギアを低速に切り換えてエンジンブレーキを使い、断続的に両方のブレーキをかけてください。ブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキを過熱させ、効力を低減させる可能性があります。

ブレーキペダルに足をかけたまま、又はブレーキレバーに手をかけたまま走行すると、ブレーキライトが点灯するため、他の道路使用者は表示を誤解する恐れがあります。又、ブレーキを過熱させ、ブレーキ作用の有効性を低下させる恐れがあります。

エンジンのスイッチを切ったまま惰走したり、モーターバイクを牽引したりしないでください。トランスミッションは、エンジンが回転中だけ圧力給油されます。潤滑が不十分であれば、トランスミッションの損傷や焼付きの原因となり、急激にモーターバイクのコントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

モーターバイクの運転

ABS（アンチロックブレーキシステム）装備モデルのみ

⚠ 警告

ABS が車輪がロックされるのを防ぎます。従って、非常時や滑りやすい路面を走行している時こそ、ブレーキシステムの有効性は最大限に発揮されます。ABSのおかげで特定の状況下でも短距離でのブレーキ制動が可能になったとはいえ、そうした形でABSに頼るのは良いことではありません。

常に法定制限速度内で走行してください。

注意散漫な状態で決して運転をせず、天候、道路のコンディション、交通状況により、減速するべきときは減速してください。

コーナリングの時は注意してください。コーナリングの最中にブレーキをかけると、ABSでモーターバイクの重量と速力を抑制できません。そのため、バランスを崩して事故になる恐れがあります。

同機種のモーターバイクであっても、ABSを装備したモーターバイクの方が長めのブレーキ間隔が必要となる場合があります。

ABS 警告ランプ



ABS インジケータランプの点灯は、ABS が使えないことを示しています。エンジンをスタートしてから時速10 km/hのスピードに達するまでの間、ランプが点灯しているのが正常な状態です。不具合が発生しない限り、エンジンを再びスタートさせるまで2度と点灯することはありません。

それ以外で走行中にインジケータランプが点灯するのは、ABS に誤動作が生じたからであり、点検が必要です。

注記：

- ・ ブレーキレバーやペダルの普段にない感触や振動によって、ABS が作動したことにライダーが気づくのが普通です。ABS は統合ブレーキシステムではないので、フロントとリアブレーキとを同時に制動できず、レバーかペダル、場合によっては両方から振動が身体に伝わります。
- ・ 突然上り坂や下り坂になると、ABS が作動することがあります。

⚠ 警告

ABS が機能していないと、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして作動します。インジケータランプが点灯したままの状態、長く走行を続けしないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、バランスを崩して事故を招く恐れがあります。

モーターバイクの運転

！ 警告

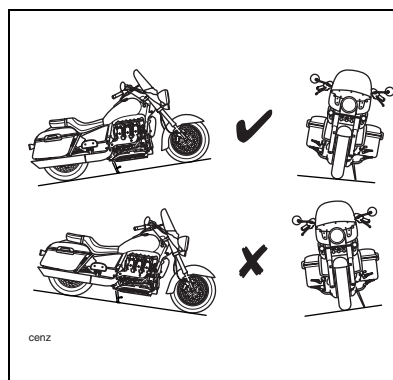
モーターバイクのセンタースタンドを立てた状態で、リアホイールを高速で30秒以上回転させるとABS警告ライトが点灯します。この反応は正常です。

イグニッションスイッチをオフにして、再びモーターバイクを始動すると、バイクが時速30 km/hに達するまで警告ライトが点灯しています。

！ 警告

ABSコンピューターがフロントとリアホイールの相対速度を比較します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用した場合、ホイールスピードに悪影響を及ぼしてABSが作動しない恐れがあり、そのため普通ならABSが作動する状況下でも、バランスを崩して事故を引き起こす可能性があります。

駐車



ニュートラルにしたら、OFFポジションにイグニッションスイッチを回してください。

盗難防止のために、ステアリングをロックします。

モーターバイクの転倒を防ぐために、必ず、固く平坦な場所に駐車してください。斜面に駐車する時にスタンドが外れ、バイクが前に動いて倒れないように、必ず上がり坂に向けて駐車してください。バイクが動くのを妨げるためにギアをファーストに入れます。

側面が傾斜している場所では必ず、傾斜がモーターバイクを自然にサイドスタンドの方に押しつけるように駐車してください。

横に6°以上傾いている斜面には駐車しないこと。又、坂下に向けての駐車は、絶対に避けてください。

モーターバイクの運転

注記：

- ・ 夜間に道路近くに駐車したり、法律で駐車灯の点灯を義務づけられている場所に駐車したりする場合は、イグニッションスイッチをP (PARK) にして、テールライト、ライセンスプレートライト、ポジションライトを点灯したままにしてください。

スイッチをPポジションに合わせたままで長時間放置しないでください。バッテリーが上がることもあるからです。

警告

路面の柔らかい所や急勾配の所で駐車しないでください。そうした場所に駐車すると、モーターバイクが転倒して破損したりケガをしたりします。

警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。車庫その他の屋内に駐車する時は、換気が良く、モーターバイクの近くに火炎や火花の発生源がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

上記アドバイスに従わなかった場合、火災が発生して損傷したりケガをしたりする恐れがあります。

警告

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。通行人や子どもたちがモーターバイクに触れることができるような場所に駐車しないでください。熱いうちにエンジンや排気装置に触ると火傷する恐れがあります。

モーターバイクの運転

高速走行の際の注意

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。天候や交通状態を考慮し、状況次第で必ず減速してください。

⚠ 警告

本 Triumph モーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなつて事故を引き起こすことがあります。

⚠ 警告

高速走行時のモーターバイクの操縦特性は、法定制限速度で走行している時の慣れ親しんだ特性とは違う可能性があります。十分なトレーニングを受けて必要な技術を修得するまでは、高速走行を試みないでください。誤った操縦の結果、重大な事故に終わることになりかねないからです。

⚠ 警告

以下に列挙された事柄は極めて重要なので、絶対に軽視してはなりません。普通速度で走行中は気づきもしないような問題が、高速走行時には大問題になりかねません。

一般事項

モーターバイクが定期整備表に従って整備されてきていることを確認してください。

ステアリング

ハンドルは、遊びが大き過ぎず、きつ過ぎる部分もなく、スムーズに回転するか調べてください。コントロールケーブルがステアリングの邪魔にならないことを確認してください。

荷物

確実に、すべての荷物用コンテナを閉じてロックし、モーターバイクにしっかり固定してください。

モーターバイクの運転

ブレーキ

フロントとリアブレーキが適切に機能しているか調べてください。

タイヤ

高速走行ではタイヤに負担がかかります。安全走行には、タイヤのコンディションが良好であることが極めて大切です。タイヤの全体的な状態を調べ、適正空気圧になるまで空気を入れて（タイヤが冷えた状態で）、ホイールバランスを点検してください。タイヤ空気圧を点検した後、バルブキャップをしっかりとはめます。タイヤの点検とタイヤの安全性確保に関しては、整備の章と仕様の章の指示に従ってください。

燃料

高速走行すると燃料の消費量が増大するので、燃料は十分用意してください。



注意

多くの国々で、本モデルの排気装置に、排気ガスの排出量低減に役立つ、触媒作用コンバーターを取り付けるサービスを行なっております。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

エンジンオイル

エンジンオイルのレベルが適正であることを確かめます。補充の際は、正しい等級とタイプのオイルが使われていることを確認してください。

ファイナルドライブオイル

ファイナルドライブオイルのレベルが適正であることを確かめます。補充の際は、正しい等級とタイプのオイルが使われていることを確認してください。

クーラント

クーラントの液面が膨張タンクの上限ラインにきているか調べてください。（液面レベルは、必ずエンジンが冷えている時に点検します。）

電装品

ヘッドライト、テール / ブレーキライト、方向指示灯、ホーン等、すべてが適切に作動することを確認してください。

その他

締め具はすべて強くしまっているか目で点検します。

モーターバイクの運転

このページは意図的に空白にしています

アクセサリー、積載条件、同乗者

アクセサリー、積載条件、同乗者

アクセサリーを付け加えたり積載重量を増したりすると、モーターバイクのハンドリング特性に影響を与え、安定性に変化を生じさせて、減速せざるを得なくなることがあります。以下は、モーターバイクにアクセサリーを付け加えたり、同乗者や荷物を乗せて運転する場合に生じ得る危険について述べたものです。ガイドラインとして参考にして下さい。



警告

積載の仕方が不適当な場合、事故につながる危険な走行状態を引き起こしかねません。

積載する荷物は、必ずモーターバイクの両側に等しく重量がかかるように振り分けてください。モーターバイクが走行中に荷物が動かないように、適切に固定された状態であることを確認してください。

荷物が安全な状態であるか、たえずチェックしてください(バイクの走行中は不可)。また、必ず、荷物がモーターバイクの最後部からはみ出すことのないようにしてください。

最大車両積載重量の 220 kg を絶対に超えないようにしてください。

この最大積載重量とは、ライダー、同乗者、取り付けられたアクセサリーのすべて、(ある場合は)パニアの中またはシート上の積荷、これらの重量の合計です。



警告

バイクの制御性を損なうようなアクセサリーを取り付けたり、荷物を積んだりしないでください。また、自分が、照明具の可視度、ロードクリアランス、バンキング性能(すなわち傾斜角度)、取り付けられている場合の ABS、コントロール走行、ホイールトラベル、フロントフォークの動き、あらゆる方向の視界、モーターバイク操縦に関わる他の要素に悪影響を与えていないことを確認してください。

アクセサリー、積載条件、同乗者

⚠ 警告

アクセサリーを装備したバイクやペイロードを運搬するモーターバイクは、絶対に時速 130 km/h 以上のスピードで運転しないでください。

上記のいずれか/両方が該当する状態の時は、たとえ法定最高速度の範囲内であっても、時速 130 km/h を超える速度での運転を試みてはなりません。

アクセサリーおよび/またはペイロードがあると、モーターバイクの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターバイクの安定性に生じる変化を考慮に入れなかった場合、バイクのコントロールが妨げられて、事故につながる恐れがあります。

許可されていないアクセサリーの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターバイク全体のコンディション、悪路や悪天候などの場合、絶対制限速度が時速 130 km/h 以下になることを忘れないでください。

⚠ 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなつて事故を引き起こすことがあります。

アクセサリー、積載条件、同乗者

⚠ 警告

同乗者に対して、急に身体を動かしたり変な座り方をすると、モータバイクのバランスを崩す可能性がある伝えてください。

ライダーは同乗者に以下のように伝えてください。

- ・ 同乗者は、モータバイクが走行中はじっと動かずに乗車していて、運転の邪魔をしないことが大切です。
- ・ パッセンジャーフットレストに足を乗せ、シートストラップかライダーの腰をしっかり掴んでください。
- ・ コーナーを回るときにライダーが身体を傾けたら同乗者も一緒に身体を傾け、それ以外は傾けないようにアドバイスしてください。

⚠ 警告

バイクに動物を載せて運ばないでください。

動物が急に動き出してモータバイクのバランスを崩し、事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

同乗者が乗っていると、モーターバイクの操縦性能やブレーキ性能に影響を与えることがあります。ライダーは、同乗者を乗せて運転する時に生じるこうした変化に備えておかねばなりません。二人乗りのトレーニングを受け、それがもたらす操作特性の変化をよく知って落ち着いて対応できるようにならない限り、二人乗り走行を試みてはなりません。

同乗者の存在を考慮に入れないでモーターバイクを運転した場合、バイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす可能性があります。

アクセサリ、積載条件、同乗者

⚠ 警告

どんな物であろうと、フレームと燃料タンクの間に保管しようとはなりません。これはステアリングのじゃまになる可能性があり、制御性を損なって事故につながる可能性があります。

ハンドルあるいはフロントフォークに重さが加わると、ステアリングアセンブリーのかさが増すため、ステアリングの制御性が損なわれて事故を引き起こす結果になりかねません。

⚠ 警告

装備されているフットレストに足が届かないほど背の低い人を、バイクに同乗させないでください。

フットレストに足が届かないほど背の低い同乗者は、バイクにしっかりと腰掛けられず、不安定な走行状態を引き起こしかねません。その結果、制御性が損なわれて事故に至る恐れがあります。

⚠ 警告

タンデムシートに小さな荷物を載せて運ぶ場合、荷物の総重量が 5 kg を超えてはならず、バイクの制御性を損なうようなものであってはなりません。また、車体の後部や脇からはみ出さない程度の大きさで、しっかりと固定されていなくてはなりません。

不安定で制御性を損なうような、あるいは車体の後部や側面からはみ出している、重量が 5 kg を超える荷物を運搬すると、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

小さな物を積載しているだけの場合でも、モーターバイクの最高速度を時速 130 km/h に落とす必要があります。

整備と調整

目次

定期整備	60
エンジンオイル	63
オイルレベルの点検	63
オイルとオイルフィルターの交換	64
使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分	66
オイルの仕様と等級	66
冷却装置	67
腐食防止剤	67
クーラントレベルの点検	68
クーラントレベルの調整	68
クーラントの交換	69
ラジエーターとホース	69
バンク角指示器	71
スロットルコントロール	71
点検	72
調整	73
クラッチ	74
点検	74
調整	74
ブレーキ	75
ブレーキの磨耗点検	75
新しいブレーキパッドとディスクでブレーキング	75
ブレーキパッドの磨耗補整	75
ディスクブレーキフルード	76
ブレーキフルードのレベル点検と調整	77
ブレーキライトスイッチ	78
フロントガラスの清掃	79
ステアリング / ホイールベアリング	80
ステアリングの点検	80
ステアリング (ヘッドストック) ベアリングの遊び点検	80
ホイールベアリングの点検	81

整備と調整

フロントサスペンション	82
フロントフォークの点検	82
サスペンションの調整	83
目安となるサスペンション設定値	83
ファイナルドライブユニット	84
ファイナルドライブオイルレベル調整	84
タイヤ	85
タイヤ空気圧	85
タイヤの磨耗	85
トレッドの推奨最小深度	86
タイヤの交換	87
バッテリー	89
バッテリーの取り外し	89
バッテリーの処分	90
バッテリーの整備	90
モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクの バッテリーの放電	90
バッテリーの充電	90
バッテリーの取り付け	91
ヒューズボックス	92
ヒューズの識別	93
ヘッドライト	94
ヘッドライトの上下調整	94
ヘッドライト左右調整	95
ヘッドライトの電球交換	95
リアライト	97
バルブの交換	97
方向指示灯	98
バルブの交換	98
洗車	99
洗車の準備	99
注意すべき部分	100
洗車後	100
シートケア	100
塗装されていないアルミニウム部品	101

整備と調整

排気装置の清掃	101
洗浄	101
乾燥	102
保護	102

整備と調整

定期整備

モーターバイクを安全で信頼できる状態に維持するために、本章で要点を述べる整備と調整を必ず行なってください。定期整備表に沿って、日常の安全点検の章で指定されていることを実施してください。以下は、日常の点検および簡単な整備と調整を実施する際に従う手順を解説したものです。

！ 警告

定期整備表の整備項目を正しく実施するため、特別な工具、知識、トレーニングが必要です。そのような知識と設備を備えているのは、正規 Triumph デイラーだけです。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規Triumphディーラーで実施してください。

！ 警告

整備はどれも極めて大切ですから、怠ってはなりません。整備や調整の不備により、モーターバイクの部品が誤作動を起こすことがあります。誤作動のモーターバイクは、コントロールが失われて事故を引き起こしかねません。

天候、地形、地理的条件によって整備内容は異なります。モーターバイクが使用される環境の特殊性や個々のオーナーの必要性に合わせて、整備スケジュールを調整してください。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規Triumphディーラーで実施してください。

Triumph Motorcycles 社は、オーナーによって実施された整備や調整の不備に起因する損傷、負傷については、一切責任を負いませんのでご了承ください。

整備と調整

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間の いずれか先に達した方							
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D	整備 A	整備 B
	毎	800 1ヶ月	16,000 1年	32,000 2年	48,000 3年	64,000 4年	80,000 5年	96,000 6年
エンジン－漏れ点検	日	●	●	●	●	●	●	●
エンジンオイル－交換	－	●	●	●	●	●	●	●
エンジンオイルフィルター－交換	－	●	●	●	●	●	●	●
バルブクリアランス－点検 / 調整	－		●		●		●	
エアクリーナー－交換	－			●		●		●
オートスキャン－Triumph 診断ツールでフルオートスキャンを行います。	－	●		●		●		●
エンジン ECM－保存されている DTC をチェック	－	●	●	●	●	●	●	●
スパークプラグ－点検	－		●	●		●	●	
スパークプラグ－交換	－				●			●
スロットルボディ－バランス調整	－		●	●	●	●	●	●
スロットルケーブル－点検 / 調整	日	●	●	●	●	●	●	●
冷却装置－漏れ点検	－	●	●	●	●	●	●	●
クーラントレベル－点検 / 調整	日	●	●		●		●	
クーラント－交換	－			●		●		●
燃料系統－漏れ、擦り切れ、その他を点検	日	●	●	●	●	●	●	●
燃料フィルター－交換	－			●		●		●
ライト、計器類&電装系統－点検	日	●	●	●	●	●	●	●
ステアリング－作動状態点検	日	●	●	●	●	●	●	●
ヘッドストックベアリング－点検 / 調整	－	●	●	●	●	●	●	●
ヘッドストックベアリング－潤滑	－			●		●		●

整備と調整

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間の いずれか先に達した方							
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D	整備 A	整備 B
	毎	800 1ヶ月	16,000 1年	32,000 2年	48,000 3年	64,000 4年	80,000 5年	96,000 6年
フォークー漏れ / 作動状態点検	日	●	●	●	●	●	●	●
フォークオイル交換	－					●		
ブレーキフルードレベル点検	日	●	●	●	●	●	●	●
ブレーキフルード交換		2年ごと						
ブレーキパッド摩耗状態点検	日	●	●	●	●	●	●	●
ブレーキキャリパーフルード漏れとピストンの焼き付き点検	－	●	●	●	●	●	●	●
ブレーキマスターシリンダーフルード漏れ点検	－	●	●	●	●	●	●	●
ファイナルドライブオイル漏れ点検	日	●	●	●	●	●	●	●
ファイナルドライブオイルのレベル点検	－	●	●		●		●	
ファイナルドライブオイル交換	－			●		●		●
ホイール損傷がないか点検	日	●	●	●	●	●	●	●
ホイールベアリング - 摩耗 / 滑らかさのチェック	－	●	●	●	●	●	●	●
タイヤの摩耗 / 損傷点検	日	●	●	●	●	●	●	●
タイヤ空気圧点検 / 調整	日	●	●	●	●	●	●	●
締め具類 - 締め具合を目視点検	日	●	●	●	●	●	●	●
クラッチケーブル点検 / 調整	日	●	●	●	●	●	●	●
サイドスタンド作動状態点検	日	●	●	●	●	●	●	●
燃料と蒸発ロス* ホース交換	－					●		

* California でのみ装備されている蒸発システム

整備と調整

エンジンオイル



cbnz

エンジン、トランスミッション、クラッチが正常に機能するように、エンジンオイルを適切なレベルに保ち、定期整備表に従ってオイルとオイルフィルターを交換してください。

警告

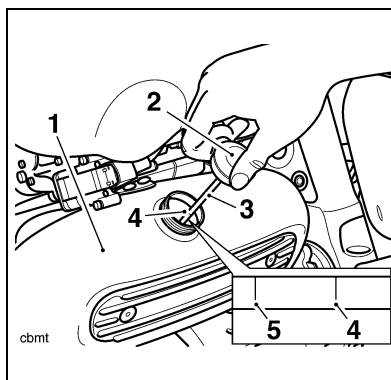
エンジンオイルが不足、劣化、あるいは汚染した状態でモーターバイクを運転すると、エンジンの摩耗を早め、エンジンやトランスミッションの焼付きに帰する恐れがあります。エンジンまたはトランスミッションが焼付きを起こすと、突然制御不能に陥って事故を起こしかねません。

オイルレベルの点検

注意

一定時間（2 時間以上）エンジンを止めていた場合、エンジンを始動させて短時間のアイドリングを行い、それからエンジンを切って 10 秒間放置してからオイルレベルをチェックします。

このようにすることで、正確なオイルレベルがオイルゲージで分かります。



1. オイルタンク
2. オイルタンクキャップ
3. オイルゲージ
4. 上限マーク
5. 下限マーク

注意

オイルの交換又は補給中に、オイルタンクに異物又は汚染物が混入しないようにしてください。オイルタンクに混入した汚染物は、エンジンの損傷につながりかねません。

整備と調整

エンジン停止。

フィラーキャップ/ディプスティックをオイルタンクから取り外し、ディプスティックをきれいに拭いて、フィラーキャップを所定の位置に押し込みます。

注記：

- 実際のレベルは、モーターバイクをまっすぐに立て（サイドスタンドを使わない）、フィラーキャップ/ディプスティックを完全に押し込んだ状態の時に表示されます。

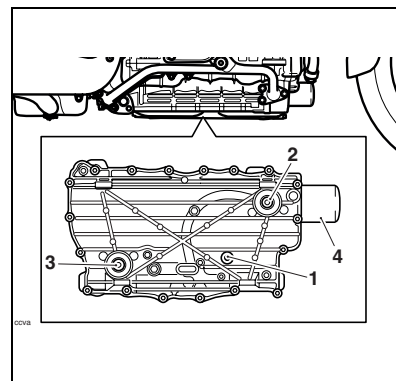
フィラーキャップ/ディプスティックを取り外します。

オイルレベルの上限は、フィラーキャップ/ディプスティック上のマークで示されています。オイルレベルが適正な時は、オイルレベル表示は、ディプスティック上の上限ラインと下限ラインの間にあるはずです。

オイルレベルが低すぎる場合は、液面が適正レベルに達するまで少しずつオイルを補充してください。

適正レベルに達したら、フィラーキャップ/ディプスティックを取り付けます。

オイルとオイルフィルターの交換



1. オイルタンクドレンプラグ
2. フロントサンプドレンプラグ
3. リアサンプドレンプラグ
4. オイルフィルタカバー

エンジンオイルとフィルターは、定期整備表に従って交換しなければなりません。

本モーターバイクは、ドライサンプ式潤滑装置を使っているため、オイル交換の手順は今までの方法とは異なります。オイルの大半が、サンプの中ではなくエンジン左側にあるオイルタンクの中に入っているからです。エンジンオイルとフィルタを交換するには、以下 / 次ページの指示に従ってください。

整備と調整

⚠ 警告

エンジンオイルに長く触れたり繰り返して触れたりすると、皮膚の乾燥、かゆみ、皮膚炎を起こすおそれがあります。その上、使用済みエンジンオイルには発ガン性の有害汚染物質が含まれています。必ず適切な防護服を着用し、使用済みオイルが皮膚に触れないようにしてください。

エンジンを少しの間アイドルさせてから止め、モーターバイクをまっすぐ立てて固定します。

エンジンの下にオイルドレンパンを置きます。

サンプの底からオイルタンクドレンプラグを取り外し、オイルタンクを空にします。

注記：

- **オイルタンクドレンプラグを取り外すと、サンプではなくオイルタンクから、オイルが排出されます。サンプ中に残存している少量のオイルを抜き取るには、フロントおよびリアのサンププラグも取り外す必要があります。**

新しいワッシャを入れてオイルタンクドレンプラグを取り付け、**25 Nm**で締め付けます。

オイルドレンパンをエンジンのフロント部に寄せて置き、フロントサンプドレンプラグを取り外してオイルを流出させます。これにより、サンプのフロント部に残存していたオイルが排出されます。

新しいワッシャを組み込んでフロントサンププラグを取り付け、**25 Nm**まで締め付けます。

オイルドレンパンをエンジンのリア部に寄せて置き、リアサンププラグを取り外してオイルを流出させます。そうすると、サンプのリア部に残存していたオイルが排出されます。

新しいワッシャを組み込んでリアサンププラグを取り付けます。**25 Nm**のトルクで締め付けます。

⚠ 警告

オイルに触れるには熱過ぎるかもしれません。適切な防護服、手袋、防護メガネなどを着用し、高温のオイルに触れないようにしてください。過熱したオイルに触れると火傷する恐れがあります。

オイルフィルタカバーを、モーターバイクのフロント側にゆっくりと引っ張って外します。

オイルドレンパンをオイルフィルタの下に置きます。

Triumph サービスツール T3880313 を使い、オイルフィルターをねじって外します。オイルフィルターを環境にやさしい方法で処分してください。

新しいオイルフィルターのシーリングリングに新しいエンジンオイルを薄く塗りつけます。オイルフィルターを取り付けて**10 Nm**で締め付けます。

オイルタンクの上限マークに達するまで、API SH（あるいはそれ以上）及び JASO MA 仕様に準拠する 10W/40 又は 15W/50 の半合成又は完全合成のエンジンオイルを補充してください。

エンジンをかけ、最低 30 秒間アイドルさせます。

整備と調整



注意

オイルがエンジン各部にゆきわたる前に、アイドル以上にエンジンの回転を上げると、エンジンの損傷や焼付きのもととなる可能性があります。オイルが完全にゆきわたるよう数秒間エンジンを回転させた後でない限り、エンジン速度を上げないでください。



注意

エンジンオイルの油圧が低すぎると、油圧低下警告灯が点灯します。エンジンが回転しているのにこのランプが消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに損傷を与えることがあります。

エンジンが始動するとまもなく油圧低下警告灯が消えることを確認します。

イグニッションを切り、前述の要領でオイルレベルを点検し、オイルゲージ上の上限と下限レベルを示す線の間に液面がくるようにオイルを補充します。

注記：

- ・ オイルとフィルタを交換した後に初めてエンジンを始動させた時、適正レベルにするために少なくとも1から1.5リッターのオイルを補充する必要があります。

使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分

環境保護のため、オイルを地面、下水、排水口、水路等に流さないでください。使用済みオイルフィルターを普通のごみと一

緒に置かないでください。処分の仕方がわからない時は、最寄りの地方自治体にお問い合わせください。

オイルの仕様と等級

Triumph の高性能燃料噴射式エンジンは、API SH (または上) 及び JASO MA 仕様を満たした 10W/40 又は 15W/50 の半合成又は完全合成のエンジンオイル用に設計したエンジンです。

エンジンオイルに化学添加剤を加えないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑するようになっており、添加剤はクラッチがスリップする原因となる場合があります。

鉱油、植物油、非洗浄性オイル、ひまし油など、求められている仕様に適合しないオイルは使わないでください。そのようなオイルを使うと、エンジンに瞬時に多大な損傷を与えかねません。

冷却装置



cbob

効率的にエンジンを冷やすには、毎日モーターバイクに乗る前にクーラントレベルを点検し、液面が低くなっていたら補充してください。

注記：

- ・ モーターバイクを工場から出荷する際、通年型のハイブリッド有機酸技術（OAT または HOAT）クーラントを冷却装置に入れています。色はグリーンで 50%濃度のエチレングリコール基の凍結防止剤を含有し、凝固点が -35°C です。

腐食防止剤

冷却装置を腐食から護るために、クーラントに腐食防止剤を入れることが極めて重要です。

腐食防止剤の入っているクーラントを使わなければ、冷却装置のウォータージャケットやラジエーターに錆びや湯垢がたまります。これはクーラントの通路を塞いで、冷却装置の能率を著しく低下させます。

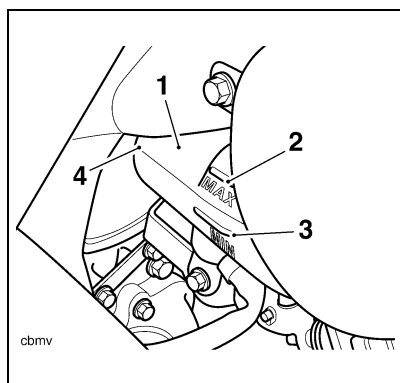
警告

アルミニウムエンジンとラジエーターに適した腐食防止剤と不凍剤の入った、HD4XハイブリッドOATクーラントを使ってください。必ず、メーカーの指示に従って不凍剤を使ってください。

不凍剤と腐食防止剤が混ざったミックスクーラントには、人体に有害な有毒物質が含まれています。不凍剤やモーターバイクのクーラントは、絶対に飲み込まないでください。

整備と調整

クーラントレベルの点検



1. 膨張タンク
2. MAX (上限) マーク
3. MIN (下限) マーク
4. フルードレベル

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

膨張タンク内のクーラントレベルは、カバーを取り外さなくても点検することができます。それは、燃料タンクの左側にある吸気カバーのフロントエッジの後ろ側にあります。

膨張タンク内のクーラントレベルを調べます。クーラントレベルは、MAX (上側の線) と MIN (下側の線) マークの間になければなりません。クーラントレベルが下限マークより下にある場合は、調整する必要があります。

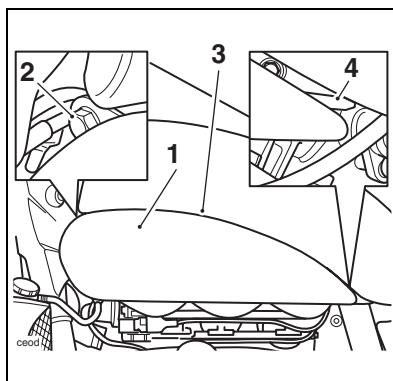
クーラントレベルの調整



警告

エンジンが高温になっている時は、膨張タンクキャップやラジエーターキャップを外さないでください。エンジンが高温になっている時は、膨張タンク内のクーラントも熱しており、圧力も高くなっています。高温、高圧のクーラントに触れると、火傷をしたり皮膚を傷めたりすることがあります。

エンジンが冷めるのを待ちます。



1. 吸気カバー
2. 吸気カバーのフロント固定具
3. 吸気カバーのセンターサポート
4. 吸気カバーのリアサポート

吸気カバーを以下の手順で取り外します：フロント固定具を取り外し、次にカバーをモーターバイクの前方向にスライドさせて、センターとリアのサポートから外します。

整備と調整

膨張タンクからキャップを外し、補給口から液面レベルがMAXマークに達するまで混合冷却液を補充します。キャップを再び取り付けます。

注記：

- ・ クーラントの過熱が原因でクーラントレベルを点検するのであれば、ラジエーター内の液面レベルも点検し、必要があれば補充してください。
- ・ 緊急で止むをえない場合には、冷却装置に希釈水を補充しても構いません。ただし、なるべく早い機会にクーラントを抜き取り、HD4X ハイブリッドOAT クーラントを補充してください。



注意

冷却装置に硬水を使用すると、エンジンやラジエーターに酸化膜が蓄積して、冷却装置の効率が著しく低下させます。冷却装置の効率が低下すると、エンジンを過熱させて多大な損傷を与えることになりかねません。

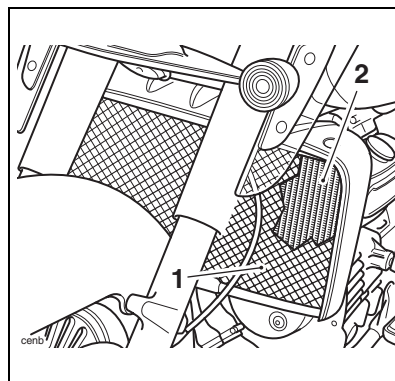
吸気カバーを以下の手順で取り付けます：カバーをセンターとリアのサポートにはめ、慎重に動かして所定の場所に取り付けます。固定具をはめて **9 Nm** で締め付けます。

クーラントの交換

定期整備表の指示に従い、正規 Triumph ディーラーに依頼してクーラントに交換してもらってください。

ラジエーターとホース

定期整備表の指示に従って、ラジエーターホースに亀裂や劣化がないか、ホースクリップが硬くなっていないか点検してください。欠陥のあるものは、正規 Triumph ディーラーに付け替えてもらってください。



1. ラジエタグリル
2. ラジエタフィン

ラジエーターグリルとフィンに昆虫や枯葉、泥などが詰まっていないか点検してください。低圧の放水で詰まっているゴミを洗い流してください。

整備と調整



警告

ファンは、エンジンが回転している間は、自動的に作動します。常に手や衣服をファンから遠ざけておいてください。回転中のファンに触れると負傷する可能性があります。



注意

洗車場にある高圧ウォータースプレーや家庭用の加圧洗浄機を使うと、ラジエターフィンに損傷を与えて漏れやラジエターの能力低下を引き起こす可能性があります。

承認されていないアクセサリをラジエターの前や冷却ファンの後ろに装備して、ラジエターを通る空気の流れを遮断したり、そらせたりしないでください。ラジエターの空気の流れを妨げると、過熱してエンジンに損傷を与える恐れがあります。

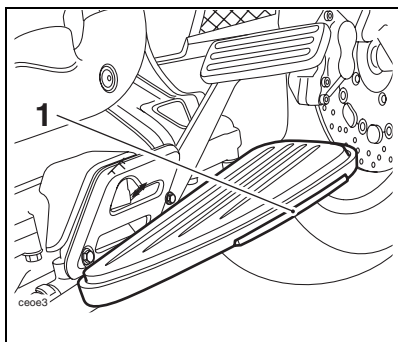
整備と調整

バンク角指示器

バンク角指示器は、ライダー用ステップの外縁に付いています。

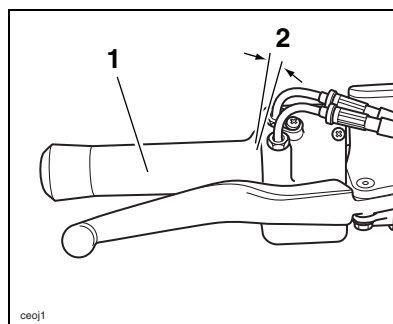
バンク角指示器を定期的に点検し、外縁に磨耗がないか調べます。

バンク角指示器が磨耗している場合は、ステップが損傷する前に取り換えてください。



1. バンク角指示器

スロットルコントロール



1. スロットルグリップ

2. 2 - 3 mm

⚠ 警告

スロットルグリップは、スロットルボディ内のスロットルバルブを制御します。スロットルケーブルが正しく調整されていない場合は、きつ過ぎてもゆるすぎてもスロットルを制御するのが難しくなり、性能に悪影響を与えることがあります。

定期整備表に従ってスロットルグリップの遊びを点検し、必要に応じて調整を行ってください。

常にスロットルの「感触」の変化に敏感でいてください。少しでも変化に気づいた時は、正規 Triumph ディーラーにスロットルシステムを点検してもらってください。メカニズムの磨耗が原因で生じた変化は、スロットルの膠着につながる可能性があります。

不適当に調整された、引っかかりたり動かなかったりするスロットルにより、バイクが制御不能に陥って事故を招くことがあります。

整備と調整

点検

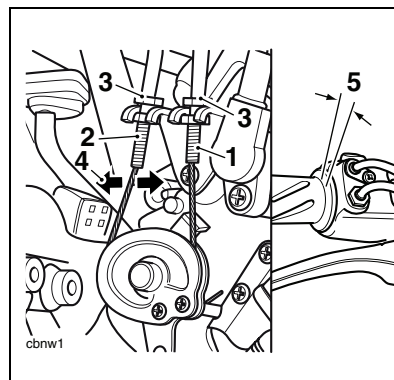
スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、引っかからずに絞れるかを調べてください。問題が見つかったり、不審な点のある場合は、正規 Triumph ディーラーに、スロットルシステムを点検してもらってください。

スロットルグリップを前後に軽く回した時に、スロットルグリップに 2 - 3 mm の遊びがあるかを調べてください。

遊びの大きさが不適当な場合、Triumph 社は、調整を最寄りの正規 Triumph ディーラーにしてもらうことをお勧めします。しかしながら、非常時の場合は、以下の手順でスロットルを調整できます：

！ 警告

調整や配線が不適当になされていたり、滑らかに動かないあるいは損傷しているスロットルケーブルを装着したモーターバイクを運転すると、スロットルの機能が妨げられ、バイクを制御しきれなくなって事故に帰することがあります。不適切な調整や配線を避け、動きのスムーズでない、あるいは損傷のあるスロットルを継続的に使用することのないように、必ず、最寄りの正規 Triumph ディーラーにスロットルを点検、調整してもらってください。



1. オープニングケーブルアジャスター
2. クロージングケーブルアジャスター
3. ロックナット
4. クロージングケーブル遊び測定ポイント
5. オープニングケーブル遊び測定ポイント

注記：

- ・ 微調整は、スロットルのツイストグリップ側のアジャスターを使って行なうことができます。この方法で正しい設定ができなかった場合は、スロットルボディー側にあるアジャスターを使う必要があります。設定は、最初に「オープニング」ケーブル、次に「クロージング」ケーブルの順で行なわなくてはなりません。

整備と調整

調整

シートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

冷却装置の項で説明した要領で吸気カバーを取り外します。

「オープニング」ケーブルアジャスターのロックナットをゆるめます。

ツイストグリップ側の「オープニング」ケーブルアジャスターを、それぞれの方向に等分に調節されるよう回します。

ケーブルのスロットルボディー側の「オープニング」ケーブルアジャスターを、ツイストグリップに 2 - 3 mm の遊びをもたせるために回します。ロックナットを締め付けます。

ケーブルのツイストグリップ側に近いアジャスターを使い、2 - 3 mm の遊びをもたせるのに必要な微調整を行なってください。ロックナットを締め付けます。

スロットルを完全に絞った状態で、スロットルボディーに取り付けられているスロットルカムのところ、「クロー징ング」ケーブルに 2 - 3 mm の遊びがあることを確かめます。必要があれば、「オープニング」ケーブルと同じ要領で 2 - 3 mm の遊びをもたせるように調整してください。



警告

両方のケーブルのアジャスターロックナットすべてを確実に締め付けてください。ロックナットがゆるんでいると、スロットルが動かなくなる恐れがあります。

スロットルの調整が不適切で、ひっかかったり膠着状態になると、バイクの制御性が損なわれて事故を起こす場合があります。

吸気カバーを再装着し、固定具を 9 Nm で締め付けます。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

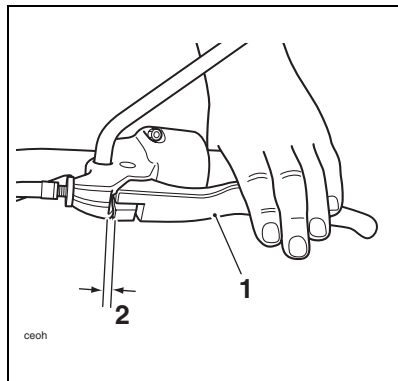
シートを再装着します。

スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、ひっかからずに絞れるかを調べてください。

走行を再開する前に、最寄りの正規 Triumphディーラーまで慎重にバイクを走らせ、スロットル系を徹底的に調べてもらってください。

整備と調整

クラッチ



1. クラッチレバー

2. 2 - 3 mm

本モーターバイクにはケーブルで操作するクラッチが装備されています。

クラッチレバーの遊びが大き過ぎると、クラッチが完全に切れない恐れがあります。そうすると、ギヤチェンジやニュートラルに入れる際に困難が生じることがあります。これは、エンストやモーターバイクを制御困難な状態に陥らせる原因になりかねません。逆に、クラッチレバーの遊びが十分でなければ、クラッチが完全にかみ合わずに、スリップを招く恐れがあります。これは、クラッチの性能を低下させ、磨耗を早める原因になることがあります。

定期整備表に従って、必ずクラッチレバーの遊びを点検してください。

点検

レバーの遊びが2 ～ 3 mmあるか点検してください。

遊びの大きさが不適当な場合は、調整する必要があります。

調整

クラッチケーブルのレバー側のきざみ付きロックナットを緩め、クラッチレバーの遊びの大きさが適正になるまでアジャスタースリーブを回します。

きざみ付きロックナットをクラッチレバーアセンブリに嵌めて締めます。

レバーアジャスターで適切な調整ができない場合は、ケーブルの下端にあるケーブルアジャスターを使ってください。

アジャスターロックナットを緩めます。

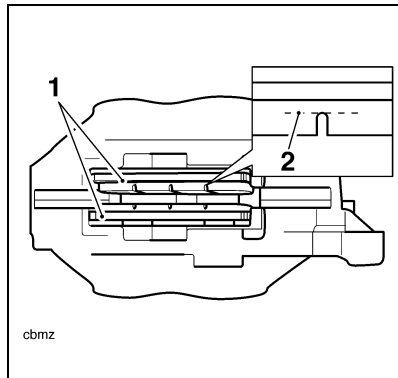
クラッチレバーのところに2 - 3 mmの遊びができるよう外側のケーブルアジャスターを回します。

ロックナットを締め付けます。

整備と調整

ブレーキ

ブレーキの磨耗点検



1. ブレーキパッド
2. 厚さの下限ライン

ブレーキパッドは、定期整備表の指示に従って点検し、修理サービスの限界又は最低限度を超える薄さまで磨耗している時は、交換しなければなりません。

フロント又はリアブレーキのいずれかのパッドのライニング厚さが 1.5 mm 以下になっていたら、つまり、パッドが溝の底まで磨耗していたら、そのホイールのパッドを全部交換してください。

新しいブレーキパッドとディスクでブレーキング

交換用ブレーキディスクやパッドをモーターバイクに取り付けたら、性能を最適化し、ディスクとパッドを長持ちさせるため、一定期間にわたる慣らし運転をお勧めします。新パッドとディスクによる、推奨する慣らし運転の距離は、300km です。

新ブレーキディスクとパッドを取り付けたら、慣らし運転中は急ブレーキを避け、

慎重に運転し、車間距離を空けてください。

警告

ブレーキパッドは必ずホイール単位で交換しなければなりません。フロントの場合、同じホイールにキャリパーが2つ付いているので、両方のキャリパーのブレーキパッドを全部交換してください。パッドを個々に交換すると、制動効率が低下し、事故を招く恐れがあります。ブレーキパッドを交換した直後は、新しいパッドが「よく馴れる」まで、慎重に運転してください。

ブレーキパッドの磨耗補整

ディスクとブレーキパッドの磨耗は自動的に補整され、ブレーキレバーやペダルの動きに影響を及ぼしません。フロントとリアブレーキに調整を必要とする部品はありません。

警告

ブレーキをかけた時に、ブレーキレバーやペダルがソフトに感じられたり、あるいはレバー/ペダルの遊びが大きすぎる場合、ブレーキパイプに空気が入っているか、ブレーキに欠陥がある恐れがあります。

このような状態でモーターバイクを運転するのは危険です。必ず、走行前に最寄りの正規Triumphディーラーに故障を修理してもらってください。

ブレーキに欠陥のある状態で走行すると、バイクの制御性が損なわれ事故を招く恐れがあります。

整備と調整

ディスクブレーキフルード

両方のリザーバのブレーキフルードレベルを点検し、定期整備表に従ってブレーキフルードを交換してください。仕様の章で推奨されているように、DOT 4 のブレーキフルードだけを使ってください。ブレーキフルードに水分やその他の汚染物質が混入した場合、又はその疑いがある場合も、ブレーキフルードを交換する必要があります。

⚠ 警告

ブレーキ液には吸湿性があり、大気中の水分を吸収することがあります。

吸収された水分は、ブレーキフルードの沸点を大幅に下げ、ブレーキの制動効率低減の原因となることがあります。

ですから、定期整備表の指示に従って、必ずブレーキフルードを交換してください。

必ず、封がされた容器の新しいブレーキフルードを使用し、封がされていないか、既に開けられていた容器からのフルードを使用してはなりません。

ブランドや等級の異なるブレーキフルードを混ぜないでください。

ブレーキの付属器具、シール、ジョイントの周囲にブレーキフルードの漏れがないか点検し、ブレーキホースに亀裂、劣化、損傷がないかも調べてください。故障があれば、必ず走行前に直してください。

欠陥を見落とししたり適切に対処しなかった場合、モーターバイクのコントロールが失われて事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

⚠ 警告

ABS が機能しないと、ブレーキシステムが標準非ABS型ブレーキシステムとして作動します。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、バランスを崩して事故を招く恐れがあります。

スピードを落とし、インジケータランプが点灯したままの状態が必要以上に走行しないでください。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

⚠ 警告

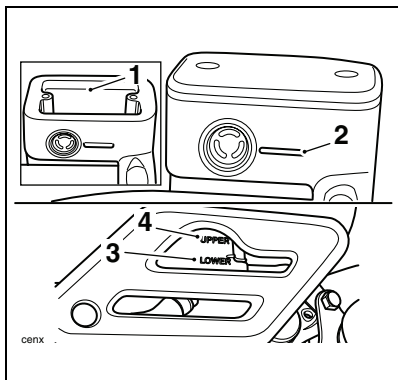
欠陥を見落とししたり適切に対処しなかった場合、モーターバイクのコントロールが失われて事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

注記：

- ABS が装備されたモデルの場合、ブレーキシステムを修理するには特殊な道具が必要です。ブレーキフルードの交換や油圧システムの整備が必要な場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご連絡ください。

整備と調整

ブレーキフルードのレベル点検と調整



1. フロントブレーキフルードリザーバ、上限ライン
2. 下限ライン
3. フロントブレーキフルードリザーバ、下限ライン
4. 上限ライン

リザーバ内のブレーキフルードレベルは、常に、上限と下限を示す2本の線の間になくってはなりません(リザーバは水平の状態)。

フロントブレーキ液リザーバカバーを固定している固定具をゆるめ、カバーを取り外します。

密閉容器に入っていた新しいDOT 4フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。

ダイアフラムシールが適切に取り付けられていることを確かめ、タンクカバーを再度取り付けます。固定具を **2 Nm** で締めつけます。

右側のヒールガードをフットレストバーに固定している固定具を取り外して、ガードを邪魔にならないように持ち上げます。

リアブレーキ液リザーバカバーを固定している固定具をゆるめ、カバーを取り外します。

密閉容器に入っていた新しいDOT 4フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。

ダイアフラムシールが適切に取り付けられていることを確かめ、タンクカバーを再度取り付けます。固定具を **2 Nm** で締めつけます。

ヒールガードを再装着し、固定具を **9 Nm** で締め付けます。

⚠ 警告

どちらかのブレーキフルードリザーバの液面レベルが著しく下がっていた場合は、走行前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談し、アドバイスを受けてください。ブレーキフルードレベルが減損している、あるいはブレーキフルードが漏れている状態で走行するのは危険であり、ブレーキ性能を低下させてモーターバイクを制御不能に陥らせ、事故を引き起こす恐れがあります。

整備と調整

ブレーキライトスイッチ

ブレーキライトは、フロント、リアの違いに関係なく、ブレーキをかければ点灯します。イグニッションを ON ポジションにした状態でブレーキレバーを引いたり、リアブレーキペダルを踏んだりしてもブレーキライトが点灯しない場合、正規 Triumph ディーラーに不具合の点検と修理を依頼してください。



警告

ブレーキライトに欠陥がある状態でバイクを運転することは、違法であり危険です。

ブレーキライトが故障しているモーターバイクを運転すると、ライダー自身や他の道路利用者までも巻き込む人身事故を起こしかねません。

フロントガラスの清掃

ウィンドスクリーンは、弱性石鹼か洗剤の溶液とぬるま湯で汚れを落とししてください。洗浄後はよくすすぎ、柔らかく糸くずの出ない布で拭いてください。



⚠ 注意

ウィンドウの洗浄液、昆虫除去剤、撥水剤、研磨剤、ガソリン、あるいはアルコール、アセトン、四塩化炭素などのような洗浄力の強い溶剤は、ウィンドスクリーンに損傷を与えます。絶対にこれらの製品をスクリーンに触れさせないでください。

除去できないひっかき傷や酸化により、ウィンドスクリーンの透明度が落ちてきた場合、ウィンドスクリーンは交換する必要があります。

⚠ 警告

モーターバイクが走行中にウィンドスクリーンの汚れを落とそうとしてはなりません。ハンドルから手を離すと車両は制御不能に陥って、事故を引き起こしかねないからです。

ウィンドスクリーンに損傷やひっかき傷のある状態でモーターバイクを運転すると、ライダーの視界が悪くなります。視界が悪いと危険であり、人身事故を引き起こしかねません。

⚠ 注意

バッテリー液などの腐食液はフロントガラスを損ないます。絶対に、腐食性化学物質をウィンドスクリーンに触れさせないでください。

整備と調整

ステアリング / ホイールベアリング

ステアリングの点検

定期整備表に従って、ヘッドストック（ステアリング）ベアリングの状態の点検と潤滑油の注油を行なってください。

注記：

- ・ ステアリングベアリングの点検を行う際は必ず、同時にホイールベアリングも点検してください。

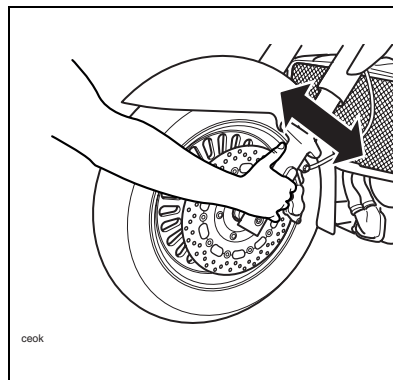


警告

点検中にモーターバイクが倒れて負傷することのないように、モーターバイクがしっかりと適切な支えの上に固定されていることを確認してください。それぞれのホイールに過度の力を加えたり、激しく揺すったりしないでください。モーターバイクが不安定な状態になり、支えから落下して怪我のもととなりかねません。

支えが、サンプに損傷を与えない箇所にあることを確認してください。

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検



モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの前に立ってフロントフォークの下側を持ち、前後に動かしてみます。

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに遊びがある場合は、運転する前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに点検と、あれば故障の修理を依頼してください。

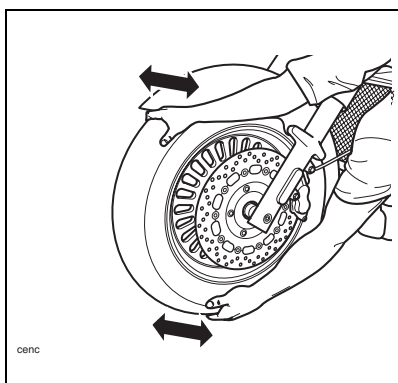


警告

調整が不適切だったり、ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに欠陥がある状態で運転すると、モーターバイクのコントロールが失われ、事故を引き起こしかねません。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

ホイールベアリングの点検



フロントやリアホイールのホイールベアリングとホイールハブとの間に遊びがあり、ノイズが発生したり、ホイールがスムーズに回転したりしない場合は、最寄りの正規Triumphディーラーにホイールベアリングを点検してもらってください。

ホイールベアリングは、定期整備表の中で指定されている間隔で、点検しなければなりません。

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの横に立って、フロントホイールの上部を静かに左右にゆすります。

走行前に遊びを感じたら、点検と故障の修理を最寄りの正規Triumphディーラーに依頼してください。

ジャッキの位置を変え、リアホイールも同じ手順で点検します。

警告

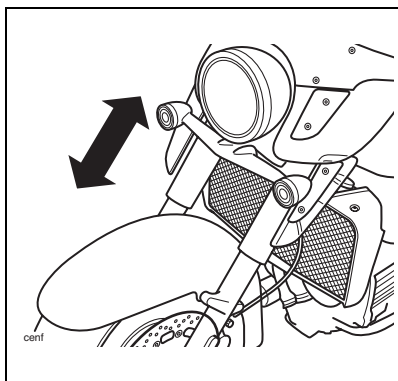
フロント又はリアホイールベアリングに磨耗や損傷のある状態で運転することは危険であり、操縦性と安定性が損なわれて事故につながる恐れがあります。不審な点がある場合、走行前に正規Triumphディーラーにモーターバイクを点検してもらってください。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

整備と調整

フロントサスペンション

フロントフォークの点検



それぞれのフォークに損傷のしるしがないか、スライダー表面に傷がないか、オイル漏れがないかを調べます。

損傷や漏れが見つかった場合は、正規 Triumph デイラーにご相談ください。

フォークがスムーズに作動するかを点検するには：

- ・ モーターバイクを平らな地面に置きます。
- ・ ハンドルを握ってフロントブレーキをかけながら、フォークを数回上下に動かしてください。
- ・ 動きが滑らかでなく、過度な硬さを感じられる場合は、最寄りの正規 Triumph デイラーにご相談ください。

⚠ 警告

サスペンションに欠陥や損傷のある状態でモーターバイクを運転することは危険であり、コントロールが失われて事故につながりかねません。

⚠ 警告

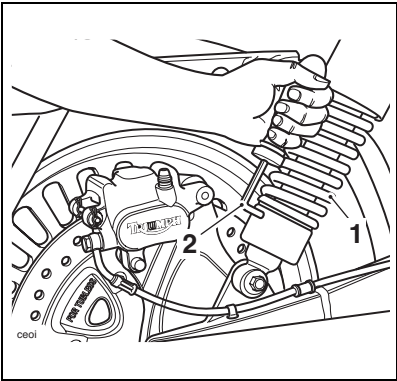
サスペンションユニットは、どの部分であっても絶対に分解しないでください。すべてのユニットには、加圧オイルが入っています。加圧オイルに触れると、皮膚や目を傷める恐れがあります。

サスペンションの調整

フロントサスペンション

フロントサスペンションは工場で設定され、調整することはできません。

リアサスペンション



- 1. リアサスペンションユニット
- 2. 調整ツール

リアサスペンションはプリロード設定のみ調整可能です。

リアサスペンションのスプリングプリロードの設定を変えるには、パニアを取り外してください（35ページを参照）。

ツールキットに入っている調整ツールを、アジャスターリングに付いている穴に差し込みます。

スプリングプリロードを大きくするにはアジャスターリングを時計回りに回し、小さくするには反時計回りに回します。工場から届いたら、プリロードアジャスターをポジション2に設定します。

パニアを再装着します（35ページを参照）。



警告

アジャスターは両方のリアサスペンションユニット上の設定値が同じになるよう設定されていることを確認します。左右の設定が異なると、操作性と安定性が損なわれてモータバイクは制御不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。

目安となるサスペンション設定値

アジャスタ設定値は、アジャスタを左（反時計回り）に完全に回し切ったところをポジション1とし、1から数えます。ポジションは合計5つあります。ポジション1に設定すると、スプリングプリロードは最小になります。

走行状態	サスペンション プリロード設定
運転者のみ	ポジション2
ライダーと同乗者	ポジション4
運転者、同乗者、荷物	ポジション5

注記：

- 本表に記載されている数値は、ライダーと同乗者の体重が、それぞれ90 kg またはそれ以下と仮定しての目安に過ぎません。設定条件は、運転者と同乗者の体重や好みによって増えることになるでしょう。

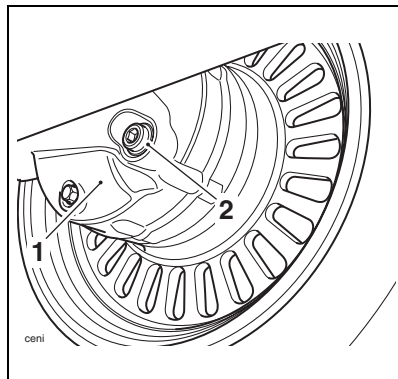
整備と調整

ファイナルドライブユニット

このユニットには、ファイナルドライブオイルレベルを点検し変える以外に、ユーザーが点検・修理できる部分はありません。ファイナルドライブユニットに故障が起きた場合は、最寄の Triumph 取扱店でアッセンブリを完全に取り替えてもらってください。

定期整備表の指示に従ってオイル漏れがないか、ファイナルドライブユニットを点検してください。

ファイナルドライブオイルレベル調整



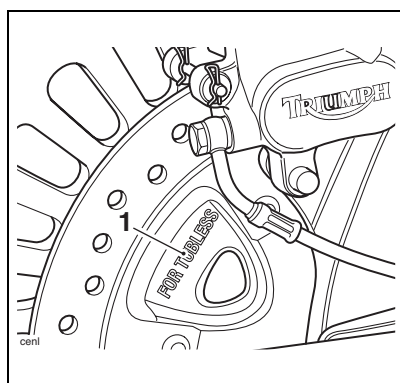
1. ファイナルドライブユニット
2. オイルレベル / フィラープラグ

ファイナルドライブのオイルレベルを点検するには、フィラー / レベルプラグを取り外します。Mobilube 1 SHC 75W-90 完全合成ハイポイドオイル(または同等のオイル)を、ユニット内のオイルレベルがフィラーの最下部に達するまで補充してください。プラグを再度取り付けて **60 Nm** で締め付けます。

警告

どんなことがあっても、ファイナルドライブユニットを分解してはなりません。上記の警告に従わなかった場合、ファイナルドライブユニットは誤作動に陥り、リアホイールが動かなくなってモーターバイクのコントロールが失われ、事故につながる恐れがあります。

タイヤ



1. ホイールマーク

本モーターバイクには、チューブレスタイヤ、バルブ、ホイールリムが装備されています。「TUBELESS (チューブレス)」のマークのついたタイヤと、リムに「FOR TUBELESS (チューブレス用)」のマークのついたチューブレスバルブのみを使用してください。

タイヤ空気圧

適切なタイヤ空気圧は、最高の安定性と快適な乗り心地を提供し、タイヤの寿命を延ばします。タイヤ空気圧の点検は、必ず走行前のタイヤが冷えている時に行なってください。タイヤ空気圧は毎日点検し、必要があれば調整してください。適切な空気圧の詳細については、仕様の章を参照してください。「タイヤ：空気圧」(109 ページを参照)。

警告

タイヤの空気圧が適当でないと、トレッドが異常に磨耗し安定性に問題が生じて、コントロールが失われ、事故につながる恐れがあります。

空気圧が低すぎると、タイヤがスリップしたり、リムから外れる結果になりかねません。空気圧が高すぎると不安定な状態になり、トレッドの磨耗を早めることがあります。

どちらの状態も危険です。バイクが制御不能に陥って事故を引き起こす危険があります。

タイヤの磨耗

トレッドが磨耗するにつれて、タイヤはパンクしたり故障をおこしやすくなります。タイヤの問題の 90% は、トレッドの寿命が尽きる前の 10% (90% 磨耗) の期間に発生していると推定されます。従って、耐用限度まで磨耗しているタイヤを使用するのは間違った節約であり、危険です。

整備と調整

トレッドの推奨最小深度

定期整備表に従って、デプスゲージでトレッドの深さを測り、トレッドの深さが下の表に記されている許容最小限度を超えて磨耗しているタイヤはすべて交換してください。

時速 130 km/h 以下	2 mm
時速 130 km/h 以上	リア 3 mm フロント 2 mm

警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

警告

本 Triumph モーターバイクの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、あるいはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなつて事故を引き起こすことがあります。

警告

過度に磨耗したタイヤで走行することは危険であり、トラクション、安定性、操縦性に悪影響を及ぼします。そのため、制御性が損なわれて事故につながる恐れがあります。

チューブレスタイヤがパンクした場合、空気は極めてゆっくり漏れるのが普通です。パンクしていないか、常に念入りに調べてください。タイヤに切り傷がないか、釘や尖ったものが刺さっていないか調べてください。パンクや損傷のあるタイヤで運転すると、モーターバイクの安定性と操縦性に悪影響を及ぼし、コントロールが失われて事故につながる可能性があります。

リムにへこみや変形がないか調べてください。損傷や欠陥のあるホイールやタイヤでの走行は危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなつて事故に帰する恐れがあります。

タイヤの交換やタイヤの安全点検については、必ず最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

整備と調整

タイヤの交換

Triumph 製のモーターバイクはすべて、モデル毎に最適なタイヤを組み合わせるために、様々な走行条件で厳密にテストされています。交換用タイヤを購入する際は、承認されている組み合わせにふさわしい認定タイヤを使うようにすることが極めて大切です。承認されていないタイヤを装備したり、認定タイヤを承認されていない組み合わせで使うことは、モーターバイクを不安定な状態に陥らせ、事故を招く恐れがあります。ABS が装備されたモデルの場合、未認定のタイヤを装備したために生じたホイール速度の違いは、ABS コンピューターに悪影響を及ぼす恐れがあります。承認されているタイヤの組み合わせに関する詳細は、仕様の章を参照してください。タイヤの取り付けとバランス調整は、安全で効果的な取り付けを確実にするために、必ず、必要なトレーニングを受け技能を有する、正規 Triumph ディーラーにしてもらってください。

！ 警告

ABS が装備されているモデルの場合、ABS コンピューターは、フロントとリアホイールの相対速度を比較することによって作動します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用するとホイールスピードに悪影響を及ぼし、ABS を誤作動に陥らせる恐れがあります。そのため普通なら ABS が機能するような状況下で、バイクのコントロールが失われ事故を引き起こす可能性があります。

！ 警告

タイヤがパンクした場合は、交換しなければなりません。パンクしたタイヤを交換しない、あるいは修繕したタイヤで走行すると、不安定な状態になり、制御不能に陥って事故につながる可能性があります。

！ 警告

チューブレスリムにチューブタイプのタイヤを取り付けしないでください。ビードが定着せず、タイヤがリムの上でスリップする可能性があり、タイヤの収縮が早まってコントロール不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れてはなりません。そのようなことをすると、タイヤの内部で摩擦が生じ、熱が発生してチューブが破裂し、急速にタイヤが収縮して、バイクのコントロールが失われ事故を起こす恐れがあります。

！ 警告

カーブに突き当たったりして、タイヤの損傷の可能性がある場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーに依頼して、タイヤの内側と外側の両方を点検してもらってください。タイヤの損傷は、必ずしも外側からは見えないことに留意してください。損傷したタイヤを付けたままモーターバイクを運転すると、制御性が損なわれて事故を招く場合があります。

整備と調整

⚠ 警告

タイヤの交換が必要な時は、最寄りの正規Triumphディーラーに相談してください。承認リストの中から正しい組み合わせのタイヤが選択されるよう手筈を整え、タイヤメーカーの指示に従って取り付けを致します。

タイヤを交換した時は、リムに馴染むまで余裕をみてください（約 24 時間）。馴染むまでの間は、慎重に運転してください。タイヤがびったりはまっていないと、制御不能に陥って事故を引き起こすことがあります。

新しいタイヤは、最初の内は、摩耗したタイヤとは異なるハンドリング特性を発揮します。ライダーは、新しいハンドリング特性に慣れるまで、十分な走行距離（約 160 キロ）を見込んでおく必要があります。

取り付けてから 24 時間後に、タイヤ圧を調べて調整し、タイヤが正しくはめ込まれているか点検してください。必要に応じて修正してください。

取り付け後 160 キロ走行した時点で、同様の点検と調整を行なう必要があります。

不適切なタイヤの取り付け、タイヤ空気圧の調整の不備、ハンドリング特性に慣れていないといった状態の時にモーターバイクを運転すると、コントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ローリングロードダイナモーター上で使用されてきたタイヤは、損傷を受けていることがあります。タイヤは、外観をただけでは損傷が分からないことがあります。そのような使い方をした後のタイヤは交換しなければなりません。傷んだタイヤを使い続けると不安定な状態になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあるからです。

⚠ 警告

モーターバイクの安全で安定した操縦には、精確なホイールバランスが欠かせません。ホイールバランスウェイトを取り外したり、変えたりしないでください。ホイールバランスが適切でなければ、不安定な状態に陥り、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

タイヤを交換した後など、ホイールバランスの調整が必要な場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

自動接着性のウェイト以外は使わないでください。クリップオンウェイトは、ホイールやタイヤに損傷を与え、タイヤの空気圧を低下させるため、コントロールが失われて事故に帰する恐れがあります。

整備と調整

バッテリー

！ 警告

バッテリーは引火性のガスを発生させる場合があります；火花、炎、タバコなどは絶対に近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

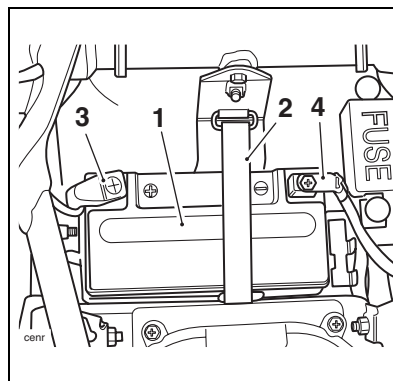
バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

！ 警告

バッテリーには有毒物質が含まれています。バッテリーは、モーターバイクに取り付けられていてもいなくても、子供の手の届かない所に置いてください。

バッテリーにジャンプリードを付けたり、バッテリーケーブルを互いに接触させたり、ケーブルの両極を逆にしたりしないでください。そのようなことをすると火花が出てバッテリーのガスに引火し、人身事故を起こす危険があります。

バッテリーの取り外し



1. バッテリー
2. バッテリーストラップ
3. プラス（赤）端子
4. マイナス端子

シートを取り外します。

バッテリーストラップを外します。

最初にマイナス（黒）の方からバッテリーのリード線を外します。

バッテリーをケースから出してください。

！ 警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

整備と調整

バッテリーの処分

万一バッテリー交換が必要になった場合、古いバッテリーは回収業者に引き渡す必要があります。バッテリー製造に使用されている有害物質が環境を汚染することのないように処分してください。

バッテリーの整備

乾いた清潔な布でバッテリーの汚れを落としてください。リード線の接続部も必ずきれいにしてください。

！ 警告

バッテリー液は腐食性があり、露わになっている皮膚を損ないます。絶対にバッテリー液を飲み込んだり、皮膚につけたりしないでください。バッテリーを扱う時は、目や皮膚を傷めないように、必ず防具類を身につけてください。

本バッテリーは密閉タイプですから整備の必要はなく、保管だけしている場合に電圧チェックや定期的な充電が必要なだけです。

バッテリーの液量を調整することはできないので、シールストリップを取り外してください。

バッテリーの放電

！ 注意

バッテリー充電レベルの管理は、バッテリー寿命を最大限に延ばすために必要です。バッテリーの充電レベルを適正に維持しないと、バッテリー内部に重大な損傷を生じるおそれがあります。

通常の使用状態では、モーターバイクの充電システムは完全な充電状態を保ちます。しかし、モーターバイクに長い間乗っていないと、自己放電という自然作用によりバッテリーは次第に放電してしまいます。時計、エンジン制御モジュール（ECM）メモリー、高い周囲温度、または電気を消費する付属品やアクセサリーの追加などのため、バッテリーの放電が増早まります。モーターバイクからバッテリーを外しておけば、放電を遅くすることができます。

モーターバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモーターバイクのバッテリーの放電

モーターバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモーターバイクのバッテリーの場合、デジタルマルチメーターで毎週電圧を測ってください。メーターに同梱されていたメーカーのマニュアルにしたがってください。

バッテリー電圧が 12.7 V 以下になった場合、バッテリーを充電してください（90 ページ参照）。

バッテリーの放電を防がなかったり、たとえ僅かな時間でも放電したままに放置すると、鉛電極板に硫酸化が発生します。硫酸化はバッテリー内部で生じる正常な化学反応ですが、長い期間続くと電極板に結晶を生じ、回復が困難になったり、不可能になります。このような永久的な損傷は、製造上の欠陥ではないので、モーターバイクの保証ではカバーされておりません。

バッテリーを常にフルに充電しておくと、寒冷時に凍結しにくくなります。バッテリーが凍結すると、バッテリー内部に重大な損傷を生じます。

バッテリーの充電

バッテリー充電器の選択、バッテリー電圧のチェック、バッテリーの充電に関する詳

整備と調整

しいことは、貴地の Triumph デイラーにご連絡ください。

⚠ 警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します；火花や火炎、タバコを近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

⚠ 注意

充電過剰になってバッテリーを損なうので、自動クイックチャージャーを使用しないでください。

バッテリー電圧が 12.7 V 以下になったら、バッテリーは Triumph が承認するバッテリー充電器で充電してください。モーターバイクから必ずバッテリーを取り外し、バッテリーチャージャーに同梱されていたマニュアルにしたがってください。

長期（2 週間以上）に亘りモーターバイクを保管するときは、バッテリーを取り外

し、Triumph が承認する整備用の充電器を使用して常に充電した状態に保ってください。

同様に、バッテリーがモーターバイクを始動できないところまで放電しているときは、バッテリーを取り外してから充電してください。

バッテリーの取り付け

⚠ 警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

バッテリーをバッテリーケースに入れます。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

腐食を防ぐために、端子にグリースを薄く塗ってください。

プラスの端子に保護キャップをかぶせます。

バッテリーストラップを再び取り付けます。

シートを再装着します。

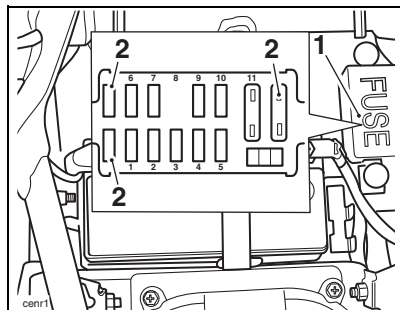
整備と調整

ヒューズボックス

メインヒューズボックス

注記：

- ・ ヒューズ位置 8 は使われていません。



1. ヒューズボックス
2. スペアヒューズ

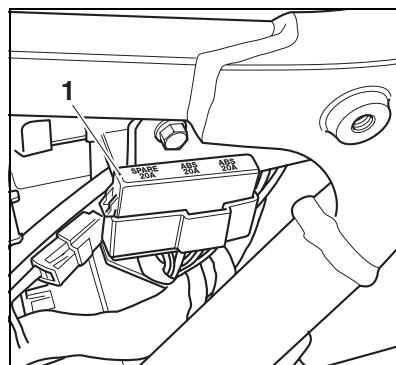
注記：

- ・ 図に示されている番号は、次頁の表に記されているヒューズ位置番号に対応しています。

メインヒューズボックスはライダーシートの下にあります。

ヒューズボックスで作業をするには、ライダーシートを取り外す必要があります。

ABS ヒューズボックス



1. ABS ヒューズボックス

ABS ヒューズボックスは、左側サイドパネルの中にあります。

ABS ヒューズボックスで作業をするには、ライダーシートと左側サイドパネルを取り外す必要があります。

警告

ヒューズが切れた時は、必ず正しい定格（ヒューズボックスのカバーに明記されているとおり）のヒューズで付け替え、絶対に定格が上のヒューズは使わないでください。適切でないヒューズを使うと、電装系統がトラブルを起こす可能性があり、モーターバイクに損傷を与えて制御不能に陥らせ、事故を招く恐れがあります。

整備と調整

ヒューズの識別

切れているヒューズは、そのヒューズで保護されているシステムのすべてが作動不能となるため、識別できます。どのヒューズが切れたかを調べる時は、以下の表を参考にしてください。

メインヒューズボックス

保護回路	定格 (アンペア)	位置
アクセサリライト	15	1
イグニッションスイッチ主要給電	30	2
アクセサリソケット、計器メモリ、ヒートグリップ、衛星利用測位システム (GPS)	10	3
アラーム、診断用コネクタ、インジケータ、ブレーキライト、ホーン	15	4
計器、燃料ポンプリレー、スタータリレー、エンジン管理システムリレー、エンジン制御モジュール、転倒検知スイッチ	10	5
エンジン管理システム	20	6
冷却ファン	15	7
不使用	–	8
アッパー及びロワーヘッドライトビーム、スタータソレノイド	15	9
ポジションライト	5	10
メインヒューズ	30	11

ABS ヒューズボックス (ABS が装備されているモデルのみ)

保護回路	定格 (アンペア)	位置
ABS	20	1
ABS	20	2

整備と調整

ヘッドライト

⚠ 警告

走行速度は、モーターバイクが走行している時の視界や気象条件に適した速度に調節してください。

対向車の運転手の目を眩ませることなく、路面の前方を十分遠くまで照らせるようビームを調整してください。ヘッドライトが正しく調整されていないと、視界が損われて事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

走行中には絶対ヘッドライトビームを調整しないでください。

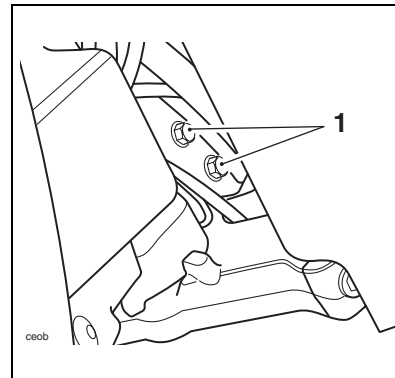
走行中にヘッドライトビームの調整を試みた場合、コントロールが失われて事故を引き起こしかねません。

⚠ 注意

定められたコースでモーターバイクを運転する場合、目につくヘッドライト外面にテープを貼るように言われます。

テープを貼ると、ヘッドライトの外面が熱を帯びてゆがみます。ヘッドライトが変形しないようにするため、定められたコースで運転する時にテープを貼る際、必ずヘッドライトを切ってください。

ヘッドライトの上下調整



1. 上下ビームアジャスター

イグニッションをオンにして、ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。上下ビーム調整ボルトを十分ゆるめて、ヘッドライトを限られた範囲内で動かせるようにします。

ヘッドライトの位置を、所期のビーム設定が得られるように調整します。

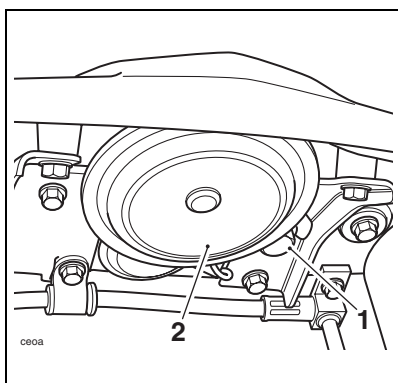
アジャスターボルトを **12 Nm** で締め付けます。

ヘッドライトビームの設定を再チェックします。

ビームの設定が順調に終わったら、イグニッションスイッチを切ってヘッドライトを消します。

整備と調整

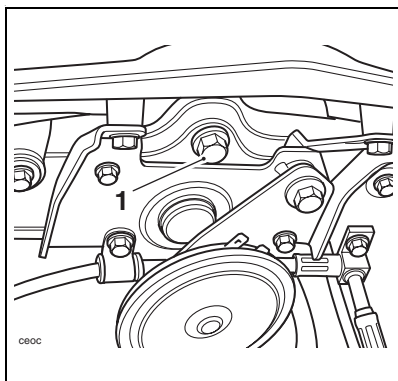
ヘッドライト左右調整



1. ホーンブラケットの固定具
2. ホーン

ヘッドライトの左右のビームは調整することができます。

イグニッションをオンにして、ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。ヘッドライトブラケット固定具の作業ができるようにするため、ホーンブラケットの固定具をゆるめてホーンを動かします。



1. ヘッドライトブラケット固定具

ヘッドライトブラケット固定具を十分ゆるめて、ヘッドライトを限られた範囲内で動かせるようにします。

ヘッドライトの位置を、所期のビーム設定が得られるように調整します。

ヘッドライトブラケットの固定具を **35 Nm** で締め付けます。

ヘッドライトビームの設定を再チェックします。

ホーンを動かして元の位置に戻し、ホーンブラケットの固定具を **18 Nm** で締め付けます。

ビームの設定が順調に終わったら、イグニッションスイッチを切ってヘッドライトを消します。

ヘッドライトの電球交換

バルブの作業をするには、ヘッドライトボウルからヘッドライトを取り外す必要があります。

⚠ 警告

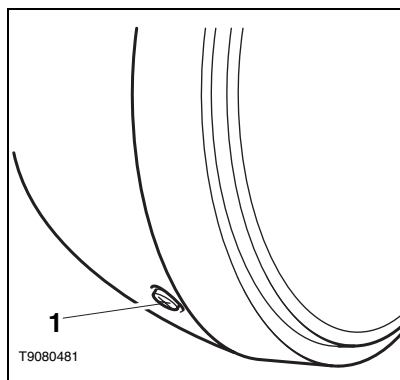
バルブは使用中は熱くなります。時間を十分かけてバルブを冷ましてから、取り扱ってください。バルブのガラス部分には触れないでください。ガラスに触れたり汚したりした時は、再使用する前にアルコールで拭き取ってください。

シートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

整備と調整

ヘッドライトリムをヘッドライトボディーに固定している2個の固定具を取り外します。



1. ヘッドライトリム固定具（2個の内の1個）

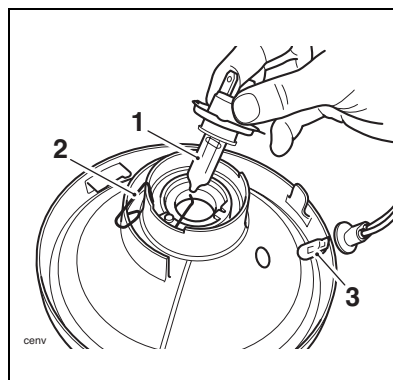
ケーブルが伸び過ぎないようにボウルを支えながら、ヘッドライトをヘッドライトボウルから取り外します。

ヘッドライトバルブからマルチピン電気コネクタを外し、ゴムカバーを取り外します。

ワイヤリテーナーをクリップから離し（ネジは外さない）てから、バルブをライトユニットから外します。

ポジションライトのバルブの取り外し方：ワイヤを引っ張らずに、バルブホルダーをソケットからゆっくり外します。バルブを

徐々に上に引っ張って、ホルダーから外します。



1. ヘッドライト電球 2. バルブクリップ 3. ポジションライトバルブ

両方のバルブの取り付けは、取り外し手順を逆に行なってください。ヘッドライトリムの固定具を **3 Nm** で締め付けます。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

シートを再装着します。

⚠ 注意

バッテリーへの再接続は、プラス（赤）のリード線から行なってください。

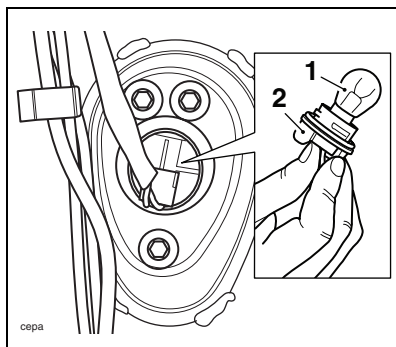
⚠ 警告

組立作業が完了するまで、バッテリーを再接続しないでください。作業の途中で再接続すると、バッテリーガスに引火して負傷事故をもたらしかねません。

整備と調整

リアライト

バルブの交換



1. リアライトバルブ
2. バルブホルダー

シートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

リアライトバルブホルダーはリアマッドガードの下にあります。

ランプボディから外すために、バルブホルダーを左（反時計回り）に回します。

バルブをホルダーから取り外すには、そっと押し込んで、反時計回りにねじってください。

バルブの取り付けには、取り外し手順を逆に行ないます。



注意

バッテリーへの再接続は、プラス（赤）のリード線から行なってください。



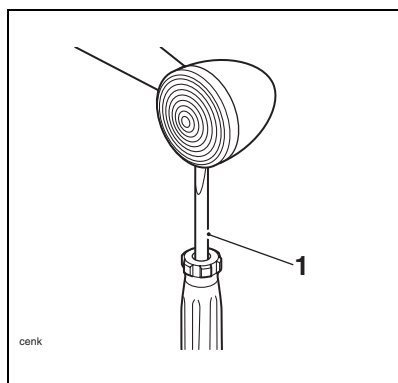
警告

使用中、バルブは熱くなります。必ず、電球が冷えるまで十分時間をかけてから、扱ってください。バルブのガラス部分には触れないでください。ガラスに触れたり汚したりした時は、再使用する前にアルコールで拭き取ってください。

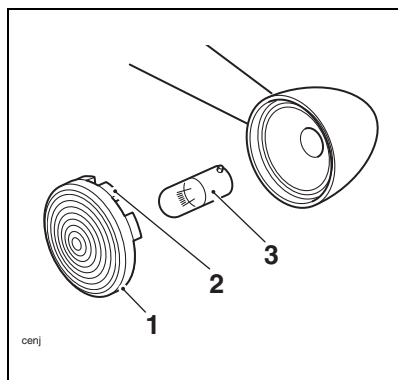
整備と調整

方向指示灯

バルブの交換



1. スクリュードライバー



- 1. レンズ
- 2. 位置決め突起
- 3. 電球

マイナスドライバーを使って慎重にインジケーターからレンズを取り外し、バルブ作業ができるようにします。

取り外すには、そっと押し込んで、反時計回りにねじってください。

バルブの取り付けには、取り外し手順を逆に行ないます。

⚠ 注意

レンズを取り付ける際、位置決め突起がインジケーターボディーに正しくはめ込まれていることを確認してください。

インジケーターレンズを取り付けるには、位置決め突起をインジケーターボディーにはめ込み、レンズを押し込んで保持クリップに固定させます。

整備と調整

洗車

定期的な洗車は、お持ちのモーターバイクの整備に欠かすことのできないものです。定期的に洗車すると、長年にわたって新車のような外観が保たれます。自動車用の洗剤を溶かした水で洗車することは、いつの場合にも大切ですが、海風や海水にさらされた後や、埃っぽい道やぬかるんだ道、冬場の融雪剤をまいた路面を走行した後は、殊に大切です。家庭用洗剤は使わないでください。その種の製品は、腐食を早めることがあるからです。

お持ちのモーターバイクの保証書の条件に基づき、特定の部品の腐食は保証の対象となっていますが、オーナーもモーターバイクを腐食から守り、外観を向上させる手段となる、本章の注意を守るようにしてください。

洗車の準備

洗車を行なう前に、下記の部分を濡らさないよう予防策を講ずる必要があります。

排気管の後部開口部：ビニール袋で覆い、ゴムバンドで動かないようにします。

クラッチとブレーキレバー、ハンドル上のスイッチハウジング：ビニール袋で覆います。

イグニッションスイッチ / ステアリングロック：キーホールをテープで覆います。

指輪、時計、ジッパー、ベルトのバックルのような装飾品は取り外します。塗装面や磨き上げられた面にひっかき傷をつけたら、損傷を与える恐れがあります。

塗装された/磨き上げられた表面とシャーシ付近の洗浄には、別のスポンジまたは洗剤用布を使ってください。シャーシ付近（ホイールやマッドガードの下）は、ざらざらした道路のほこりやちりにまみれるので、その部分の洗浄に使われたスポンジや洗剤用布を使うと、塗装してある、あるいは磨き上げられた表面にひっかき傷をつける恐れがあります。

整備と調整

注意すべき部分

下記のところには、勢いよく水を吹きつけないようにしてください：

- ・ 計器類
- ・ ブレーキシリンダーとブレーキキャリパー
- ・ 燃料タンクの下
- ・ ヘッドストックベアリング



注意

ライダーシートの下には絶対に水を吹きかけないでください。ライダーシートの下にはエンジンのベースに取り付けられている吸気ダクトがあるため、この付近に水を吹きかけるとエアボックスとエンジンに水が入って、両方とも損傷を受ける可能性があります。



注意

高圧スプレー洗車機の使用はお勧めできません。高圧洗車機を使うと、噴射された水がベアリングなどの部品内に浸入し、腐食や潤滑油の損失が原因で磨耗を早めます。

注記：

- ・ アルカリ性の強い洗剤を使うと、塗装された表面に残留物が残り、しみになりかねません。洗車プロセスの助けとなるように、必ず弱アルカリ性の洗剤を使ってください。

洗車後

ビニール袋、テープを取り外し、吸気口もきれいにします。

ピボット、ボルト、ナット類に注油します。モーターバイクを運転する前にブレーキテストをします。

エンジンを始動させ、5分間回転させます。排気ガスがこもらないよう換気を良くしてください。

乾いた布で、残った水分を拭き取ります。腐食につながりますので、マシンに水分がついたままにしないでください。



警告

ブレーキディスクには、絶対にワックスや潤滑油を施さないでください。制動力が低下し、事故に帰する恐れがあります。ディスクを拭く時は、オイルを含まないブレーキディスク専用クリーナーを使ってください。

シートケア



注意

シートのクリーニングに、化学薬品や高圧洗浄機の使用は奨励しません。化学薬品や高圧洗浄機を使用すると、シートカバーを損なう恐れがあります。

外見を保つため、石鹸と水を含ませたスポンジとクリーニング用布で、シートを洗浄してください。

整備と調整

塗装されていないアルミニウム部品

ブレーキやクラッチレバーのような部分は、外観を保つために適切な方法で汚れをとる必要があります。

研磨剤や腐食成分を含まない、専用ブランドのアルミニウムクリーナーを使ってください。

アルミニウム製部品は定期的に汚れを落としてください。特に悪天候の中を走行した後は、必ず各部品を手洗いして乾燥させてください。

整備が不十分な場合は、保証の対象となりませんのでご注意ください。

排気装置の清掃

外観が損なわれないようにするために、モーターバイクの排気装置の部品は全て定期的にクリーニングする必要があります。同じことが、クロームメッキを施し磨いたステンレススチールとカーボンファイバー製の部品に対しても言えます。

注記：

- ・ 水滴の跡が残らないよう、排気装置は十分冷えるのを待って洗浄しなくてはなりません。

洗浄

水に低刺激の自動車用洗剤を混ぜたものを用意します。一般に洗車場などで見られる強アルカリ性洗剤は使用しないでください。残留物が残るからです。

柔らかい布で、排気装置の水分を完全に拭き取ります。研磨パッドやスチールウールは使用しないでください。仕上げを損なうことがあります。

排気装置を徹底的にすすいでください。

排気管に石鹼水や水が入らないようにしてください。

整備と調整

乾燥

排気装置を柔らかい布で拭いて、できる限り水分を取ります。エンジンをかけて乾燥させないでください。水滴の跡が残ります。

保護

排気装置が乾いたら、「Motorex 645 Clean and Protect 」を表面にすり込みます。



シリコンが入っている製品を使用すると、クロムが変色するので使用しないでください。同様に、研磨剤入り洗剤や光沢剤を使うと、システムを損傷することがあるので使わないでください。

排気装置には保護剤を定期的に塗ることをお勧めします。装置の外観を保護し、きれいに保てます。

保管

保管前の準備

車体全体をくまなくきれいにします。

正しい等級の無鉛燃料を燃料タンクに給油し、燃料安定剤メーカーの指示に基づいて燃料安定剤があれば添加してください。



警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。したがって、イグニッションスイッチをオフにします。禁煙厳守。場所は換気が良く、火災や火花の元となる物がないことを確認してください。たとえば、パイロットランプ付きの電気・ガス器具などです。

シリンダーからスパークプラグを外し、エンジンオイルをシリンダーごとに数滴 (5 cc) 垂らします。スパークプラグ孔を布切れでカバーします。エンジンのストップスイッチを RUN ポジションにした状態で、スターターボタンを数秒間押し、シリンダー壁にオイルを行き渡らせませす。スパークプラグを取付け、**20 Nm** のトルクで締め付けます。

エンジンオイルとフィルターを交換します (ページ 64 参照)。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします (ページ 109 参照)。

両輪が地面から浮き上がるように、モーターバイクのスタンドを立てます。(これが無理なら、前輪と後輪の下に板を敷いて、タイヤを湿気から護ってください)

塗装されていない金属面に防錆油 (市場には多くの製品が出回っているので、貴地の代理店に問い合わせてください) をスプレーします。ゴム製部品、ブレーキディス

ク、ブレーキキャリパーにオイルが付着しないようにしてください。

冷却装置は、クーラント (Triumph 提供の HD4X ハイブリッド OAT クーラントは、事前に混合してあるので希釈は不要です) と蒸留水を 50% ずつ混合した溶液で充填します (67 ページを参照)。

バッテリーを取り外し、直射日光が当たらず、湿気のない、気温が氷点下にならない場所に保管してください。保管中のバッテリーは、隔週に一度のペースで緩速充電 (1 アンペア以下) してください (ページ 89 参照)。

モーターバイクは、ひんやりとして乾燥し、直射日光が射さず、一日の温度変化が小さい場所に保管します。

モーターバイクにカバーをかけ、ほこりやごみが積もらないように適切な多孔性カバーをしてください。プラスチックのような通気性のない、熱や湿気のこもりやすい材質の被覆が施された材質の物は避けてください。

保管

保管後の走行準備

(取り外してある) バッテリーを取り付けてください (ページ 91 参照)。

4ヶ月以上乗らなかったモーターバイクの場合、エンジンオイルを交換してください (ページ 64 参照)。

日常の安全点検項目をすべてチェックします。

エンジンを始動する前に、シリンダーからスパークプラグをすべて取り外してください。

サイドスタンドを降ろします。

油圧警告ランプが消えるまで、スタータモーターでエンジンを数回回転させます。

スパークプラグを交換し **20 Nm** のトルクで締め付け、エンジンを始動させます。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします (ページ 109 参照)。

車体全体をくまなくきれいにします。

ブレーキをチェックし、調整します。

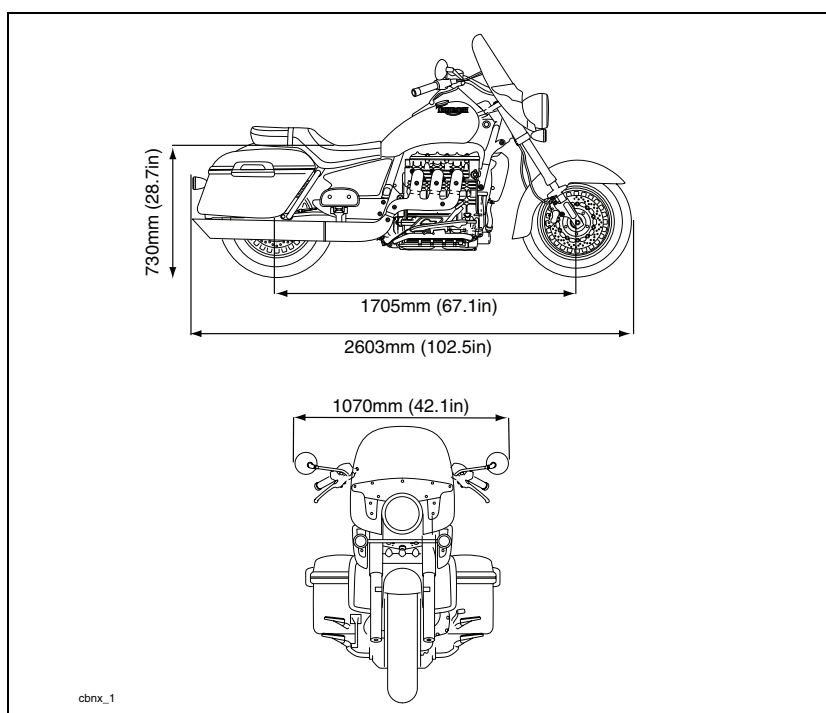
低速でモーターバイクを試運転します。

仕様

仕様 Rocket III Touring

寸法

モーターバイクの主要寸法は下に表示されています。



重量

ウェットウエイト（乗車可能）．．．．． 395 kg

最大車載重量．．．．． 220 kg

仕様

エンジン

タイプ	直列 3 気筒
排気量	2294 cc
ボア x ストローク	101.6 x 94.3 mm
圧縮比	8.7:1
順番	1 番はフロント
点火順	1-2-3

性能

最大出力 (DIN)	5,400 rpm 時 106 PS
最大トルク	2,000 rpm 時 206 Nm

潤滑

潤滑装置	リモートオイルタンクでのドライサンプ方式
----------------	----------------------

エンジンオイル容量

ドライフィル	5.9 リッター
オイル / フィルターの交換	5.4 リッター
オイルチェンジのみ	5.1 リッター

仕様

クーリング

クーラントタイプ.	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント
水 / 不凍剤比.	50 対 50 (出荷時に Triumph で混合済み)
クーラント容量.	3.2 リッター
サーモスタット開 (公称)	85 °C

燃料システム

タイプ.	シーケンシャル電子燃料噴射
燃料ポンプ.	サブマージ電動型
燃料圧.	3 バール

燃料

タイプ.	無鉛 91 RON (最低オクタン価)
タンク容量.	22.3 リッター

イグニッション

点火方式.	デジタルエレクトロニック
スパークプラグ.	NGK DPR7EA9 , 1 シリンダー当り 2
ギャップ.	0.9 mm

仕様

トランスミッション

タイプ.	常時噛合式 5 段 トランスミッションダンパー付き
クラッチ.	湿式多版
ドライブシステム.	ユニバーサルジョイントシャフト
ファイナルドライブ.	ベベルギアードクラウンホイールとピニオン
プライマリドライブ比.	1.034:1 (91/88)
ギア比:	
1 速	2.929:1 (41/14)
2 速	1.947:1 (37/19)
3 速	1.435:1 (33/23)
4 速	1.160:1 (29/25)
5 速	0.964:1 (27/28)
セカンダリドライブ比.	1.043:1 (48/46)
ファイナルドライブ比.	2.846:1 (37/13)

仕様

タイヤ

タイヤ空気圧（冷寒時）

フロント	2.48 バール
リア	2.83 バール

認可タイヤ

フロント	Metzeler ME880 Marathon 150/80 R16 71H TL
リア	Metzeler ME880 Marathon 180/70 R16 77H TL



警告

推奨されたタイヤだけを指定の組み合わせで使用してください。メーカーの異なるタイヤ、また同一メーカーでも仕様の異なるタイヤを混用しないでください。混用すると、モーターバイクのコントロールが失われて事故を招く結果になりかねません。

電装品

バッテリー	12V, 18 Ah
オルタネーター	2,000 rpm で 37Am 6,000 rpm で 41Am
ヘッドライト	12V、60/55 W ハロゲン H4
テール / ブレーキランプ	12V、5/21 W
方向指示ランプ	12V、10 W

仕様

フレーム

すくい角	32°
トレール	184 mm

締付トルク

オイルフィルター	8 - 12 Nm
オイルタンク ドレンプラグ	25 Nm
フロントサンププラグ	25 Nm
リアサンププラグ	25 Nm
スパークプラグ	20 Nm

フルードと潤滑剤

エンジンオイル	API SH（またはそれ以上）および JASO MA 仕様になった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 15W/50 モーターバイク用エンジンオイル、例えば Mobil 1 Racing 4T
ブレーキおよびクラッチ液	Mobil Universal Brake & Clutch Fluid DOT 4
クーラント	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラント
ベアリングおよびピボット	Mobil Grease HP 222
ファイナルドライブオイル	Mobilube SHC 75W-90 完全合成ハイポイドオイル（または同等のもの）

索引（あいうえお順）

索引（あいうえお順）

ABS（アンチロックブレーキシステム）インジケータランプ . . .	24	洗浄	101
安全運転	39	注意すべき部分	100
日常の安全点検	39	塗装されていないアルミニウム部品	101
安全第一	5	排気装置	101
整備と装備	8	保護	102
駐車	7	計器盤レイアウト - ABS 付き	20
燃料と排気ガス	5	計器盤レイアウト - ABS なし	19
ハンドルとフットレスト	10	警告	1
ヘルメットと防護服	6	警告・注意・注記	1
部品とアクセサリ	7	警告灯	23
モーターバイク	5	警告ラベル	2
ライディング	9	警告ラベルの位置	11, 12
イグニッション	107	情報	4
イグニションスイッチ / ステアリングロック	26	整備	2
キー	25	騒音防止システム	2
ウィンドスクリーン	34	取扱説明書	3
エンジン		高速走行	50
エンジンの始動	43	サスペンション	82
エンジンの停止	42	目安となる設定値	83
仕様	106	シートリテナー	33
シリアル番号	16	仕様	105
エンジンオイル	63	車体識別番号	16
オイルとフィルターの処分	66	重量	105
仕様と等級	66	潤滑	106
レベルの点検	63	シートロック	33
オドメーター / トリップメーター	21	スタンド	32
ギア		ステアリング / ホイールベアリング	80
チェンジ	44	遊び点検	80
クォンタレレベルの点検	68	ステアリングの点検	80
クラッチ	74	ホイールベアリングの点検	81
調整	74	スピードメーター	21
点検	74	スロットルコントロール	71
クリーニング	107	点検	72
クリーニング	99	寸法	105
乾燥	102	性能	106
洗車後	100	タイヤ	85
洗車の準備	99	交換	87
		タイヤの磨耗	85

索引（あいうえお順）

タイヤ空気圧	85	オイルレベルの調整	84
トレッドの最小深度	86	フルードと潤滑剤	110
タコメーター	21	フレーム	110
ツールキットと取扱説明書	32	フロントガラスの清掃	79
定期整備	60	フロントフォークの点検	82
電装品	109	方向指示灯	98
トランスミッション	108	バルブの交換	98
慣らし運転	38	保管	103
燃料	107	保管後の走行準備	104
燃料の条件	29	保管前の準備	103
燃料の等級	29	ブレーキ	75
燃料タンクへの給油	31	ディスクブレーキフルード	76
燃料補給	29	パッドの磨耗補正	75
フューエルタンクキャップ	30	ブレーキ液の点検と調整	77
燃料システム	107	ブレーキ操作	45
燃料計	21	ブレーキの磨耗点検	75
燃料低下	24	ライトスイッチ	78
発車	44	ヘッドライト	94
バッテリー		左右調整	95
処分	90	上下調整	94
整備	90	バルブの交換	95
取り付け	91	右ハンドルスイッチ	27
取り外し	89	エンジンストップスイッチ	27
パニアシステム	35	スターターボタン	27
左ハンドルスイッチ	28	リアライト	97
ヘッドライトディップスイッチ	28	バルブの交換	97
ホーンボタン	28	冷却装置	67
方向指示器スイッチ	28	クーラントの交換	69
ヒューズボックス	92	腐食防止剤	67
ヒューズの識別	93	ラジエターホース	69
ファイナルドライブユニット	84	レベルの調整	68